

平成30年版



交 通 白 書
ダ イ ジ ェ ス ト

交通ルール

美ら島2019



沖 縄 県 警 察

は し が き

平成30年中の本県の交通事故（人身事故）は、

発生件数 4,435件（前年比 -733件）（増減率 -14.2%）

死者数 38人（前年比 - 6人）（増減率 -13.6%）

負傷者数 5,318人（前年比 -827人）（増減率 -13.5%）

で、前年に比べ、発生件数、死傷者数ともに減少し、平成24年以降7年連続で減少したほか、統計史上2番目に少ない死者数となりました。

これらの交通事故の多くは、追突や出会い頭、右左折事故によるもので、交通事故全体の約7割を占めています。

特徴としましては、

- ① 交通事故に占める飲酒絡み事故の構成率が高い（全国平均の約2.1倍）
- ② 死傷者に占める二輪車乗車中の構成率が高い（全国ワースト5）
- ③ 若年者（16歳～24歳）関連事故の構成率が、全事故の約3割（全国ワースト）
- ④ 交差点事故の構成率が、全事故の約5割

などが挙げられます。

特に飲酒絡み事故は、平成21年10月に制定された「沖縄県飲酒運転根絶条例」に基づき関係機関・団体、事業所、交通ボランティア等の様々な取組を連携して推進した結果、人身事故に占める飲酒絡みの人身事故の構成率が2年連続で全国ワーストを脱却するに至りました。

しかしながら、人身事故に占める飲酒絡み事故の構成率は全国平均の約2.1倍と高い水準で推移しており、依然として厳しい現状にあります。

こうした状況を踏まえ、沖縄県警察としましては、「日本一交通安全な沖縄県」を実現するため、平成31年の交通警察活動の重点を

飲酒運転根絶及び交通事故抑止対策の推進

と定め、

「交通ルール 守る心に 事故はなし」

を年間スローガンに掲げ、飲酒絡みの事故や二輪車・若年者の事故、高齢者の事故等の総合的な交通事故抑止対策を定めた

交通事故抑止総合プラン「美ら島2019」

に基づいて、県や市町村、交通関係機関・団体と連携を強化して

「飲酒運転をしない させない 許さない社会環境づくり」

などの各種交通事故抑止対策を積極的に推進しているところであります。

県民の皆様には、交通事故のない安全で安心な交通社会を実現するために、交通ルールを遵守し、正しい交通マナーを実践して交通事故防止に努めていただきますようお願いいたします。

交通白書ダイジェスト版は、県民の皆様方に県内の交通事故の実態を知っていただき、悲惨な交通事故を防止するため今後の交通安全対策の資料として活用していただければ幸いです。

平成31年2月

沖縄県警察本部交通部

用語の意味

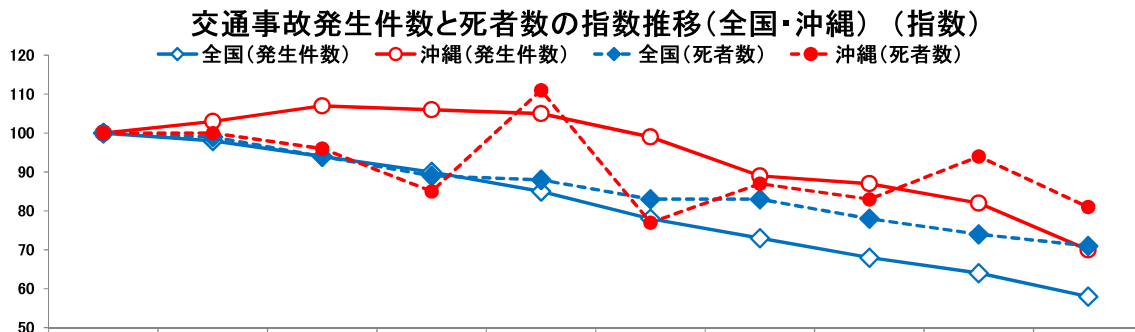
本書における用語の意味は、下記のとおりである。

- 1 「交通事故」とは、道路交通法第2条第1項第1号に規定する道路において、車両、路面電車及び列車の交通によって起こされた事故で、人の死亡又は負傷を伴うもの(人身事故)並びに物損事故をいう。
※ 本書(交通白書ダイジェスト版)では、人身事故を交通事故と表現しています。
- 2 「死亡」「死者」とは、交通事故によって、発生から24時間以内に亡くなった場合(人)をいう。
- 3 「重傷」「重傷者」とは、交通事故によって負傷し、1箇月(30日)以上の治療を要する場合(人)をいう。
- 4 「軽傷」「軽傷者」とは、交通事故によって負傷し、1箇月(30日)未満の治療を要する場合(人)をいう。
- 5 「負傷」「負傷者」とは、「重傷」「重傷者」と「軽傷」「軽傷者」の合計をいう。
- 6 「第1当事者」とは、最初に交通事故に関与した車両等の運転者又は歩行者のうち、当該交通事故における過失が重い者をいい、また同程度の場合には被害が軽い者をいう。
- 7 「事故類型」とは、事故を当事者の種類(人または車両)によって類型化し、次いで当事者の事故時の行動等(動き、位置、衝突物等)によって更に細かく分類したものである。
- 8 「状態」とは、当事者の事故時の状態(自動車運転中、自動車同乗中、歩行中等)をいう。また「乗車(用)中」とは、運転中と同乗中の合計をいう。
- 9 「昼」とは、日の出から日没までの間をいう。
うち「昼明」は、日の出から1時間以内の範囲、「昼暮」は日の入前の1時間以内の範囲をいう。
- 10 「夜」とは、日没から日の出までの間をいう。
うち「夜暮」は、日の入後の1時間以内の範囲、「夜明」は日の出前の1時間以内の範囲をいう。
- 11 「歩行者」とは、道路上を歩行中、又は走行中の人をいう。
(道路作業中の者、路上遊戯中の者、路上にたたずんでいる者も含む)
- 12 「若年者」とは、年齢が16歳～24歳の者をいう。
- 13 「子供」とは、中学生以下の者をいう。
- 14 「高齢者」とは、年齢が65歳以上の者をいう。
- 15 構成率とは、全体(総計)に占める各項目等の割合をいう。
- 16 指数は、平成21年を100とした場合の平成30年の値をいう。

目 次		
第1	交通事故の発生状況の推移と特徴	4
1	交通事故発生状況推移(全国・九州比較)	4
2	沖縄県の交通事故発生件数・死者数・負傷者数の推移	5
3	市町村別交通事故発生状況及び飲酒運転検挙状況	7
4	飲酒絡み事故発生状況	10
5	二輪車事故発生状況	11
6	レンタカー事故発生状況	12
7	自転車事故発生状況	13
8	歩行者の事故発生状況	14
9	子供(中学生以下)の事故発生状況	15
10	高校生の事故発生状況	16
11	若年者(16歳～24歳)の事故発生状況	17
12	高齢者(65歳以上)の事故発生状況	18
第2	平成30年中の交通事故発生状況	19
13	月別発生状況	19
14	時間帯別発生状況	19
15	曜日別発生状況	20
16	昼夜別発生状況	20
17	路線別発生状況	21
18	道路形状別発生状況	21
19	交差点事故発生状況	22
20	事故多発交差点	22
21	事故類型別発生状況	23
22	年齢層別発生状況	24
23	法令違反別・年齢層別発生状況	24
24	年齢層別死傷者の状況	25
25	状態別死傷者の状況	25
26	シートベルト着用状況	25
第3	交通指導取締状況	26
27	交通違反検挙状況	26
28	暴走族等検挙状況	27
29	ひき逃げ発生検挙状況	27
第4	運転免許	28
30	運転免許人口の推移	28
31	点数制度	28
32	行政処分執行状況の推移	28
33	運転免許証自主返納制度	29
第5	交通規制、交通安全施設	30
34	一般道路の交通規制実施状況	30
35	信号機の設置状況	31
第6	各種交通事故防止対策	32
36	飲酒絡み事故防止対策	32
37	二輪車事故防止対策	34
38	子供の事故防止対策	35
39	自転車事故防止対策	36
40	高齢者の事故防止対策	37
41	シートベルト・チャイルドシート着用促進対策	38

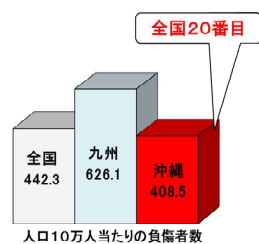
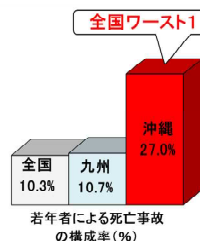
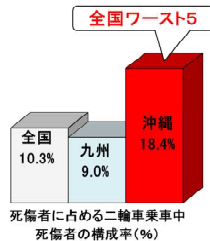
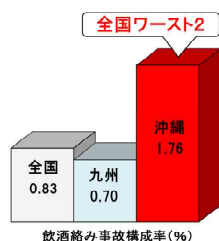
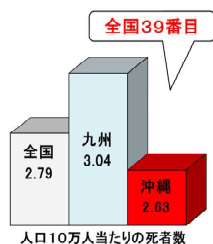
第1 交通事故の発生状況の推移と特徴

1 交通事故発生状況推移(全国・九州比較)



	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
全国(発生件数)	737,637	725,924	692,084	665,157	629,033	573,842	536,899	499,201	472,165	430,601
沖縄(発生件数)	6,324	6,501	6,788	6,697	6,664	6,242	5,621	5,491	5,168	4,435
全国(死者数)	4,979	4,948	4,691	4,438	4,388	4,113	4,117	3,904	3,694	3,532
沖縄(死者数)	47	47	45	40	52	36	41	39	44	38

平成30年中の交通事故発生状況



全国・九州比較

県内の交通事故による死者数は、人口10万人当たりで全国39番目(2.63人)、負傷者数は全国20番目(408.5人)であり、交通事故発生件数は、全国では14年連続で減少し、本県は7年連続の減少となりました。

県内の交通事故の特徴

県内の交通事故の特徴としては、

- 交通事故に占める飲酒絡み事故の構成率が高く、全国ワースト2
- 死傷者に占める二輪車乗車中死傷者の構成率が高く、全国ワースト5
(死者に占める二輪車乗車中の死者の構成率は全国17番目)
- 若年者(16歳～24歳)が原因となった死亡事故の構成率が高い(全国ワースト1)
- 全事故の54.9%が交差点において発生(全国平均54.1%より高い)

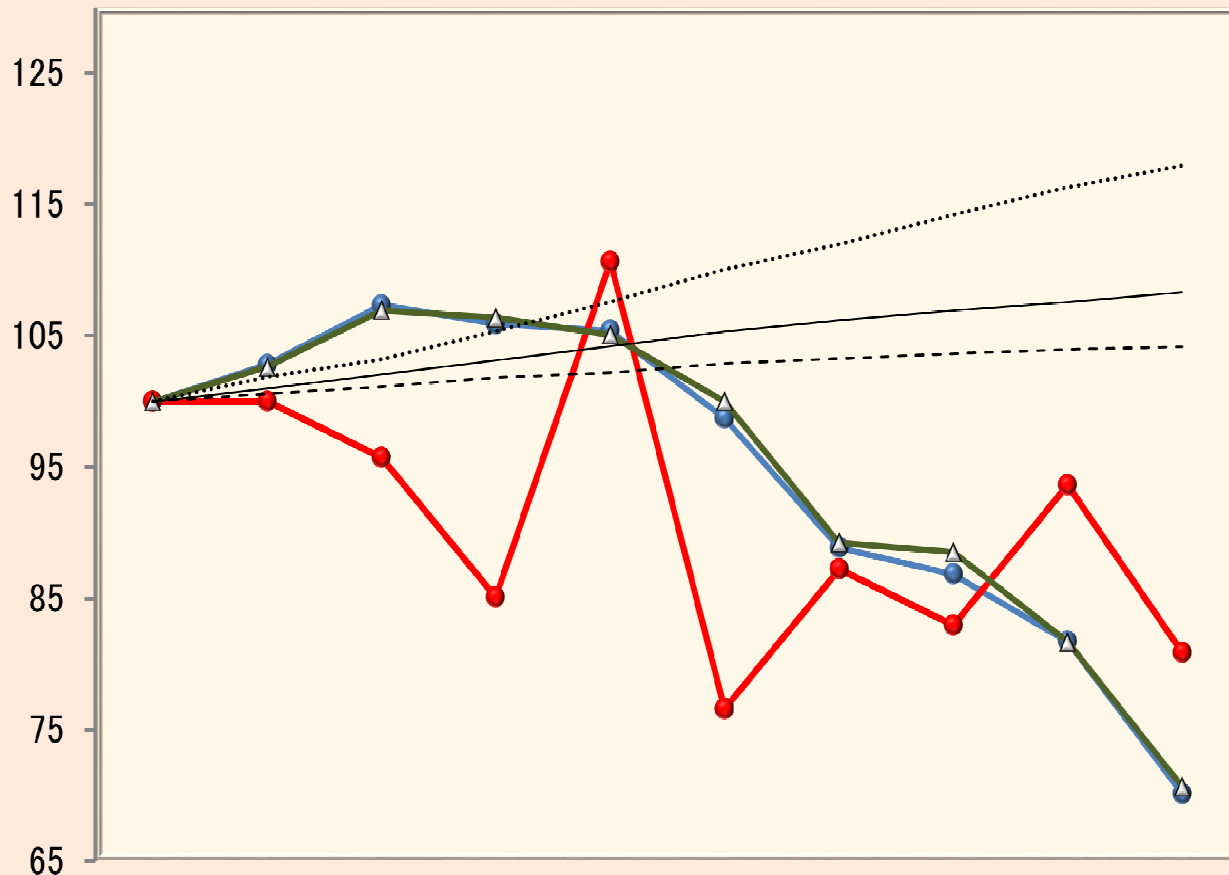
総合的な交通事故抑止対策

沖縄県警察では、平成30年の交通事故発生状況を踏まえ、交通事故のない安全で安心な「美ら島沖縄」を目指し、総合的な交通事故抑止対策として交通事故抑止総合プロジェクト「美ら島2019」を定め、飲酒運転事故防止対策などの各種事故防止対策を推進しております。

2 沖縄県の交通事故発生件数・死者数・負傷者数の推移

交通事故発生状況の推移(指数)

●発生件数 ●死者 ▲負傷者 -- 人口自動車保有台数 — 運転免許保有者数



年 別	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
発生件数	6,324	6,501	6,788	6,697	6,664	6,242	5,621	5,491	5,168	4,435
死者	47	47	45	40	52	36	41	39	44	38
負傷者	7,524	7,722	8,045	8,003	7,906	7,523	6,714	6,661	6,145	5,318
人口	1,397,812	1,406,176	1,413,583	1,422,938	1,428,817	1,438,472	1,443,123	1,448,656	1,453,208	1,456,122
自動車保有台数	981,133	999,558	1,012,377	1,033,795	1,055,604	1,079,579	1,098,704	1,120,414	1,140,887	1,157,302
運転免許保有者数	872,360	881,007	890,345	899,432	908,737	918,948	926,246	932,705	938,415	944,701

注1 人口は、住民基本台帳による。

2 車両台数は国土交通省統計資料「自動車保有車両数月報」による。

(排気量125CC以下の原付一種・原付二種・小型特殊車両は含まない。)

3 運転免許保有者数は、警察本部運転免許課の資料による。

4 上記グラフの指数は、平成21年を100とした場合の各年の値。

沖縄県では、人口、自動車保有台数、運転免許保有者数が年々増加しているが、交通事故は7年連続で減少しました。

交通事故発生状況の推移(昭和22年～平成30年)

年	交通事故発生件数		死者数		負傷者数	
		指数		指数		指数
昭和22年	-	-	106	86	264	8
23年	-	-	55	45	152	4
24年	-	-	62	50	211	6
25年	-	-	93	76	441	13
26年	-	-	105	85	485	14
27年	-	-	89	72	469	14
28年	-	-	107	87	643	19
29年	-	-	72	59	570	17
30年	-	-	51	41	630	19
31年	-	-	97	79	681	20
32年	-	-	76	62	780	23
33年	-	-	78	63	1,058	31
34年	-	-	65	53	1,043	31
35年	-	-	83	67	1,315	39
36年	1,284	49	84	68	1,416	42
37年	1,194	46	70	57	1,308	39
38年	1,201	46	75	61	1,396	41
39年	1,197	46	73	59	1,391	41
40年	1,618	62	86	70	1,890	56
41年	1,943	75	94	76	2,322	68
42年	2,069	80	98	80	2,486	73
43年	2,122	82	83	67	2,585	76
44年	2,308	89	91	74	2,825	83
45年	2,460	95	94	76	3,044	90
46年	2,426	93	82	67	3,018	89
47年	2,838	109	105	85	3,647	108
48年	2,602	100	123	100	3,391	100
49年	2,271	87	121	98	2,860	84
50年	1,969	76	107	87	2,405	71
51年	1,896	73	100	81	2,284	67
52年	1,991	77	77	63	2,390	70
53年	1,644	63	71	58	1,962	58
54年	1,576	61	66	54	1,860	55
55年	1,651	63	82	67	1,962	58
56年	1,540	59	80	65	1,869	55
57年	1,899	73	107	87	2,282	67
58年	2,435	94	82	67	2,818	83
59年	2,654	102	87	71	3,122	92
60年	2,401	92	63	51	2,799	83
61年	2,471	95	83	67	2,802	83
62年	2,521	97	78	63	2,840	84
63年	2,694	104	80	65	3,128	92
平成元年	2,839	109	93	76	3,259	96
2年	2,926	112	100	81	3,469	102
3年	3,234	124	94	76	3,742	110
4年	3,336	128	109	89	3,903	115
5年	3,169	122	115	93	3,743	110
6年	3,096	119	82	67	3,665	108
7年	2,928	113	100	81	3,492	103
8年	2,944	113	77	63	3,407	100
9年	3,118	120	90	73	3,626	107
10年	3,805	146	80	65	4,389	129
11年	3,904	150	65	53	4,443	131
12年	4,294	165	79	64	4,877	144
13年	5,115	197	78	63	6,163	182
14年	5,759	221	61	50	6,958	205
15年	6,127	235	79	64	7,352	217
16年	6,512	250	61	50	7,752	229
17年	6,519	251	63	51	7,839	231
18年	6,653	256	62	50	8,071	238
19年	6,525	251	43	35	7,852	232
20年	6,509	250	43	35	7,664	226
21年	6,324	243	47	38	7,524	222
22年	6,501	250	47	38	7,722	228
23年	6,788	261	45	37	8,045	237
24年	6,697	257	40	33	8,003	236
25年	6,664	256	52	42	7,906	233
26年	6,242	240	36	29	7,523	222
27年	5,621	216	41	33	6,714	198
28年	5,491	211	39	32	6,661	196
29年	5,168	199	44	36	6,145	181
30年	4,435	170	38	31	5,318	157

← 復帰 47年から全国統計に含まれる
 ← 死者数が過去最多の年
 ※昭和48年を100として指数を算出

← 統計上、初めて死者数が50人を下回る

← 統計上、最多の事故発生件数

← 7年振りに死者数が50人を上回る

← 統計上、最も少ない死者数

← 13年振りに6,000件を下回る

← 統計上、二番目に少ない死者数

3 市町村別交通事故発生状況及び飲酒運転検挙状況

市町村別人口1万人当たりの死傷者数

市町村別		区 分	人 口	発生件数	死 者 数		負 傷 者 数	
					人口1万人当たり		人口1万人当たり	
市 部	那 覇 市		318,944	1,142	3	0.09	1,318	41.3
	豊 見 城 市		60,655	107	1	0.16	125	19.3
	糸 満 市		63,852	126			148	24.6
	南 城 市		43,466	67	1	0.23	79	18.2
	浦 添 市		113,405	422	2	0.18	475	41.9
	宜 野 湾 市		97,112	341	2	0.21	409	42.1
	沖 縄 市		140,295	452	8	0.57	539	38.4
	う る ま 市		122,185	275	5	0.41	326	26.7
	名 護 市		62,410	194	2	0.32	271	43.4
	宮 古 島 市		54,135	137	5	0.92	161	29.7
	石 垣 市		48,946	97			113	23.1
小 計			1,125,405	3,360	29	0.26	3,964	35.2
町 部	久 米 島 町		7,945	3			4	5.0
	八 重 瀬 町		30,840	66	1	0.32	75	24.3
	南 風 原 町		38,441	136			164	42.7
	与 那 原 町		19,477	71			91	46.7
	西 原 町		34,694	123	1	0.29	145	41.8
	北 谷 町		28,561	196			253	88.6
	嘉 手 納 町		13,663	40			48	35.1
	金 武 町		11,432	36	2	1.75	42	36.7
	本 部 町		13,271	28			36	27.1
	竹 富 町		4,229	3			3	7.1
	与 那 国 町		1,698					
小 計			204,251	702	4	0.20	861	42.2
村 部	渡 嘉 敷 村		691					
	座 間 味 村		908					
	粟 国 村		705					
	渡 名 喜 村		376					
	南 大 東 村		1,251					
	北 大 東 村		568					
	中 城 村		20,521	52			58	28.3
	北 中 城 村		16,785	123			145	86.4
	読 谷 村		40,842	73			85	20.8
	恩 納 村		10,240	48	1	0.98	95	92.8
	宜 野 座 村		5,962	13	1	1.68	15	25.2
	国 頭 村		4,825	9			13	26.9
	大 宜 味 村		3,115	3			9	28.9
	東 村		1,798	4			4	22.2
	伊 平 屋 村		1,244					
	伊 是 名 村		1,453	1			1	6.9
	今 帰 仁 村		9,451	12	3	3.17	13	13.8
	伊 江 村		4,580	1			1	2.2
	多 良 間 村		1,151					
小 計			126,466	339	5	0.40	439	34.7
総 計			1,456,122	4,401	38	0.26	5,264	36.2
沖縄自動車道等			-	34		-	54	-

※人口は、平成30年1月1日の住民基本台帳による。

市町村別・居住地別飲酒絡み事故発生状況

市町村別飲酒絡み事故発生状況

区分 市町村別	全事故	市町村内発生飲酒絡み事故				率	人口	1,000人 当たり率
		死亡	重傷	軽傷	計			
市	那覇	1,142	1	2	10	1.14	318,944	0.04
	豊見城	108			1	0.93	60,852	0.02
	糸満	126			2	1.59	63,655	0.03
	南城	67					43,466	
	浦添	423		1	4	1.18	113,405	0.04
	宜野湾	341		2	4	1.76	97,112	0.06
	沖縄	458		1	10	2.40	140,295	0.08
	うるま	277			1	0.36	122,185	0.01
	名護	198		1	4	2.53	62,410	0.08
	宮古島	137	1		4	3.65	54,135	0.09
部	石垣	97					48,946	
	計	3,374	2	7	40	1.45	1,125,405	0.04

居住地別飲酒絡み事故発生状況

区分 市町村別	全事故	市町村居住者の飲酒絡み事故				率	人口	1,000人 当たり率
		死亡	重傷	軽傷	計			
市	那覇	910	1	2	9	1.32	318,944	0.04
	豊見城	152			4	2.63	60,852	0.07
	糸満	172		1	3	2.33	63,655	0.06
	南城	111		1	2	2.70	43,466	0.07
	浦添	389		1	3	1.03	113,405	0.04
	宜野湾	355		2	2	1.13	97,112	0.04
	沖縄	496			11	2.22	140,295	0.08
	うるま	321		1	4	1.56	122,185	0.04
	名護	133			2	1.50	62,410	0.03
	宮古島	106	1		4	4.72	54,135	0.09
部	石垣	83					48,946	
	計	3,228	2	8	44	1.67	1,125,405	0.05

町	久米島	3					7,945	
	八重瀬	67					30,840	
	南風原	136			5	3.68	38,441	0.13
	与那原	71		2	2	5.63	19,477	0.21
	西原	130			3	2.31	34,694	0.09
	北谷	196			5	2.55	28,561	0.18
	嘉手納	40		1		2.50	13,663	0.07
	金武	37			1	2.70	11,432	0.09
	本部	28			1	3.57	13,271	0.08
	竹富	3					4,229	
部	与那国						1,698	
	計	711		3	17	2.81	204,251	0.10

町	久米島	3					7,945	
	八重瀬	77			2	2.60	30,840	0.06
	南風原	102			1	0.98	38,441	0.03
	与那原	70			3	4.29	19,477	0.15
	西原	119			3	2.52	34,694	0.09
	北谷	128			2	1.56	28,561	0.07
	嘉手納	54			3	5.56	13,663	0.22
	金武	27		1		3.70	11,432	0.09
	本部	28					13,271	
	竹富	3					4,229	
部	与那国						1,698	
	計	611		1	14	2.45	204,251	0.07

村	渡嘉敷						691	
	座間味						908	
	粟国						705	
	渡名喜						376	
	南大東						1,251	
	北大東						568	
	中城	55					20,521	
	北中城	129		1	5	4.65	16,785	0.36
	読谷	73					40,842	
	恩納	48			2	4.17	10,240	0.20
部	宜野座	15		1		6.67	5,962	0.17
	国頭	9					4,825	
	大宜味	3					3,115	
	東	4					1,798	
	伊平屋						1,244	
	伊是名	1					1,453	
	今帰仁	12					9,451	
	伊江	1					4,580	
	多良間						1,151	
	計	350		2	7	2.57	126,466	0.07

村	渡嘉敷						691	
	座間味						908	
	粟国	1					705	
	渡名喜						376	
	南大東						1,251	
	北大東						568	
	中城	72			1	1.39	20,521	0.05
	北中城	62		1	1	3.23	16,785	0.12
	読谷	134					40,842	
	恩納	37			1	2.70	10,240	0.10
部	宜野座	26		1	2	11.54	5,962	0.50
	国頭	10					4,825	
	大宜味	6		1		16.67	3,115	0.32
	東	4					1,798	
	伊平屋	1					1,244	
	伊是名	1					1,453	
	今帰仁	16			1	6.25	9,451	0.11
	伊江	3					4,580	
	多良間						1,151	
	計	373		3	6	2.41	126,466	0.07

県合計	4,435	2	12	64	78	1.76	1,456,122	0.05
-----	-------	---	----	----	----	------	-----------	------

県外居住者等	223						-	
合計	4,435	2	12	64	78	1.76	1,456,122	0.05

※ 市町村域内で発生した飲酒絡み事故の内容別発生件数

(率)及び人口1,000人当たりの発生率である。

※ 人口は、平成30年1月1日の住民基本台帳による。

※ 交通事故当事者の居住地別による飲酒絡み事故の内容別発生件数

(率)及び人口1,000人当たりの発生率である。

※ 人口は、平成30年1月1日の住民基本台帳による。

居住地別飲酒運転検挙者数

市町村別	種別	酒酔い運転	酒気帯び運転		飲酒運転合計	市町村別人口	人口千人当 検挙件数
			0.25未満	0.25以上			
市部	那覇市	4	62	185	251	318,944	0.79
	豊見城市	1	17	64	82	60,852	1.35
	糸満市	1	19	72	92	63,655	1.45
	南城市		13	56	69	43,466	1.59
	浦添市	3	26	104	133	113,405	1.17
	宜野湾市	3	25	146	174	97,112	1.79
	沖縄市	2	55	184	241	140,295	1.72
	うるま市	8	48	171	227	122,185	1.86
	名護市	1	24	77	102	62,410	1.63
	宮古島市	2	11	63	76	54,135	1.40
	石垣市		21	60	81	48,946	1.65
	計	25	321	1,182	1,528	1,125,405	1.36
町部	久米島町	1		5	6	7,945	0.76
	八重瀬町	3	5	31	39	30,840	1.26
	南風原町	1	11	31	43	38,441	1.12
	与那原町		7	15	22	19,477	1.13
	西原町	1	4	31	36	34,694	1.04
	北谷町	1	3	30	34	28,561	1.19
	嘉手納町	1	2	15	18	13,663	1.32
	金武町		5	12	17	11,432	1.49
	本部町	1	4	17	22	13,271	1.66
	竹富町			3	3	4,229	0.71
	与那国町		2		2	1,698	1.18
	計	9	43	190	242	204,251	1.18
村部	渡嘉敷村					691	
	座間味村					908	
	粟国村			1	1	705	1.42
	渡名喜村					376	
	南大東村			1	1	1,251	0.80
	北大東村					568	
	中城村		9	31	40	20,521	1.95
	北中城村	3	3	16	22	16,785	1.31
	読谷村	2	12	60	74	40,842	1.81
	恩納村	1	3	19	23	10,240	2.25
	宜野座村		1	5	6	5,962	1.01
	国頭村		1	5	6	4,825	1.24
	大宜味村		2	6	8	3,115	2.57
	東村		2	1	3	1,798	1.67
	伊平屋村					1,244	
	伊是名村		1	1	2	1,453	1.38
	今帰仁村		4	8	12	9,451	1.27
	伊江村		1	1	2	4,580	0.44
	多良間村		1	1	2	1,151	1.74
	計	6	40	156	202	126,466	1.60
県内合計		40	404	1,528	1,972	1,456,122	1.35
その他		6	42	202	250	—	—
合計		46	446	1,730	2,222	1,456,122	1.53

※ 人口は、平成30年1月1日の住民基本台帳による。

4 飲酒絡み事故発生状況

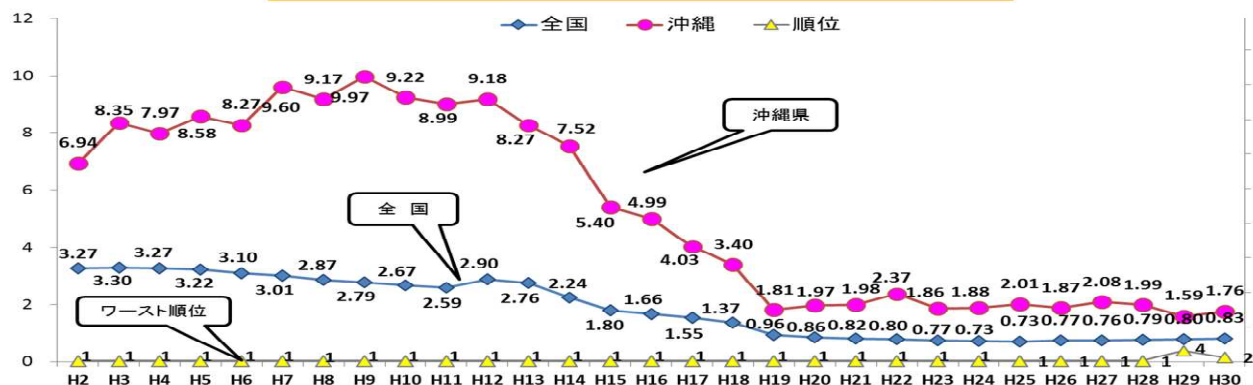
飲酒絡み事故件数

年 別	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	増減数	増減率	指数
飲酒絡み事故件数	125	154	126	126	134	117	117	109	82	78	-4	-4.9	62
死亡事故	13	8	5	7	10	9	11	13	5	2	-3	-60.0	15
死者数	13	8	5	7	10	9	11	13	6	2	-4	-66.7	15
負傷者数	161	203	172	160	168	157	156	140	105	115	10	9.5	71
うち重傷者	32	43	25	25	20	8	30	18	7	14	7	100.0	44
うち軽傷者	129	160	147	135	148	149	126	122	98	101	3	3.1	78

※ 飲酒絡み事故とは、自転車以上の車両を運転している運転者（第1当事者）が、飲酒運転により起こした交通事故件数。

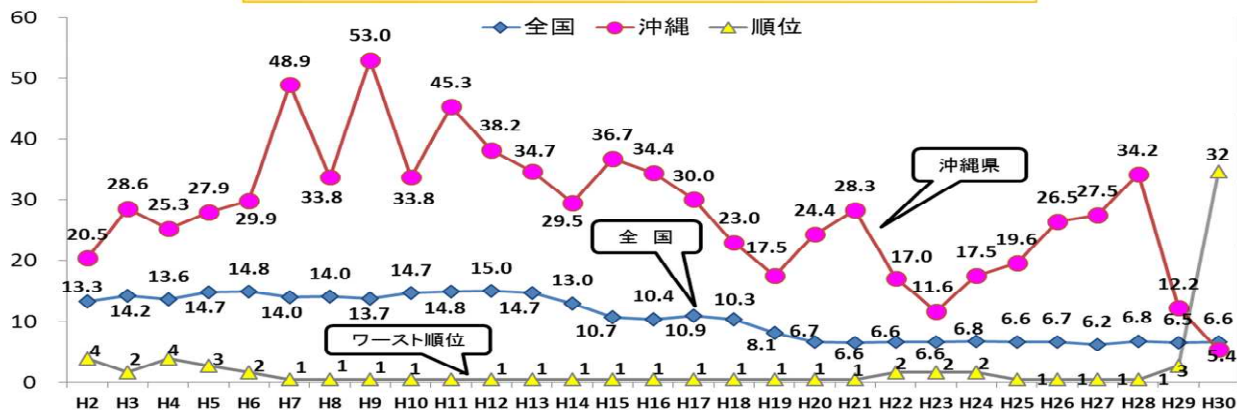
※ 死者数、負傷者数は、交通事故の運転者（第1当事者）の飲酒運転による交通事故で死傷した人数。

交通事故に占める飲酒絡み事故の構成率(%)の推移



平成30年中の交通事故に占める飲酒絡み事故の構成率は1.76%で、2年連続ワーストを脱却しましたが、依然として全国平均(0.83%)の約2.1倍という高い構成率となっています。

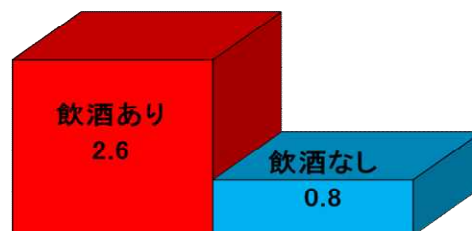
死亡事故に占める飲酒絡み事故の構成率(%)の推移



平成30年中の死亡事故に占める飲酒絡み事故の構成率は5.4%で、2年連続ワーストを脱却し、全国平均(6.6%)より1.2ポイント低い構成率となっています。

飲酒有無別の死亡事故率

	発生件数	死亡事故	死亡事故率
飲酒なし	4,280	35	0.8
飲酒あり	78	2	2.6



※ 飲酒有無別の交通事故件数には、ひき逃げ、飲酒調査不能等の77件は含まれない。

飲酒絡み事故の死亡事故率は2.6%で、飲酒なし事故(0.8%)に比べ非常に高くなっています。

5 二輪車事故発生状況

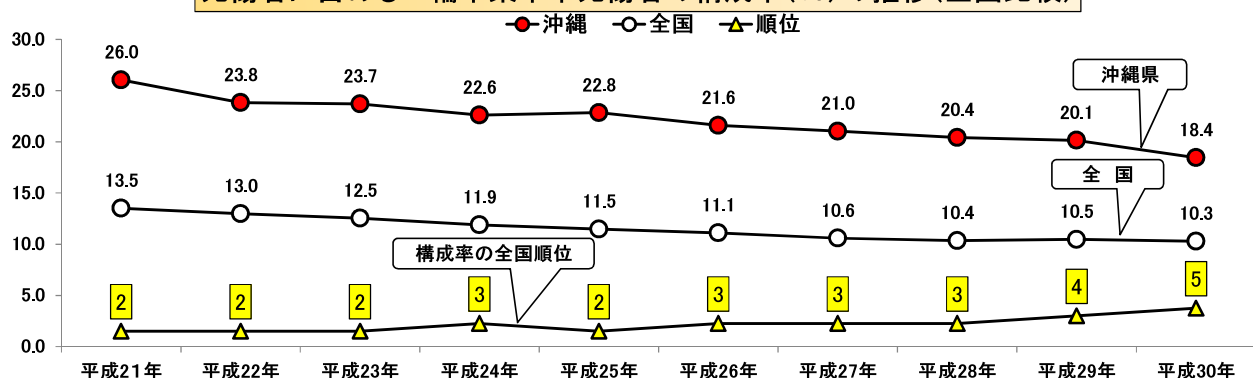
二輪車関連の事故件数

年 別	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	増減数	増減率	指数
二輪車関連事故発生件数	1,991	1,875	1,972	1,881	1,891	1,689	1,472	1,419	1,278	1,030	-248	-19.4	52
死者数	21	13	16	12	18	12	13	15	24	7	-17	-70.8	33
負傷者数	1,951	1,838	1,902	1,807	1,800	1,621	1,408	1,353	1,223	981	-242	-19.8	50
うち重傷者	393	369	346	333	304	283	292	272	268	211	-57	-21.3	54
うち軽傷者	1,558	1,469	1,556	1,474	1,496	1,338	1,116	1,081	955	770	-185	-19.4	49

※ 関連事故発生件数は、二輪車が第1当事者、第2当事者以下いずれの場合も関係した事故を含む。

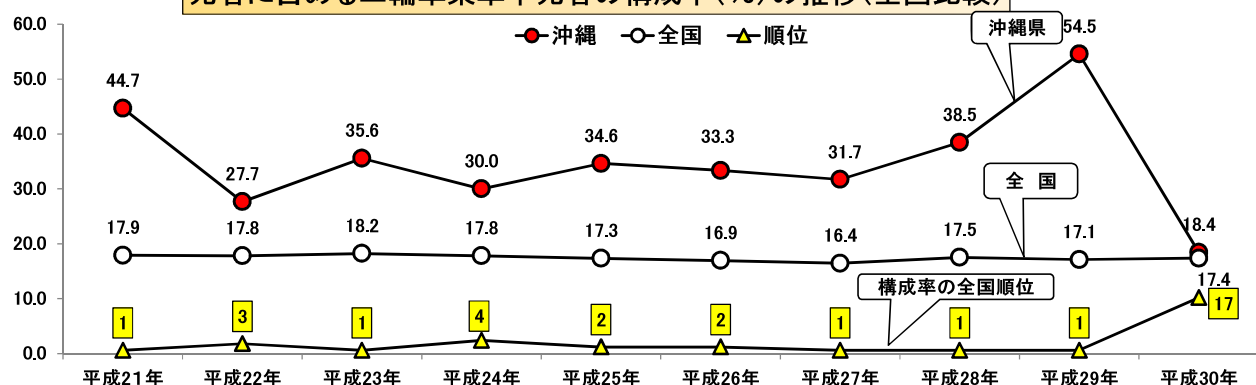
※ 死者数、負傷者数は、交通事故により二輪車乗車中の者(運転者、同乗者)が死傷した人数。

死傷者に占める二輪車乗車中死傷者の構成率(%)の推移(全国比較)



平成30年中の交通事故死傷者に占める二輪車乗車中の死傷者の構成率は18.4%で、全国平均(10.3%)の約1.8倍となっており、全国ワースト5となっています。

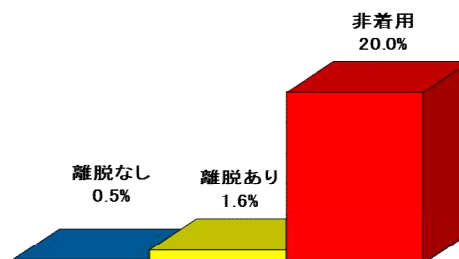
死者に占める二輪車乗車中死者の構成率(%)の推移(全国比較)



平成30年中の交通事故死者に占める二輪車乗車中の死者の構成率は18.4%で、全国平均(17.4%)より1%高く、全国ワースト17となっています。

ヘルメット着用状況別の死亡率

	二輪車乗車中 死傷者数	死者数	死亡率
離脱なし	857	4	0.5
離脱あり	126	2	1.6
非着用	5	1	20.0



非着用の死亡率(20.0%)と離脱ありの死亡率(1.6%)は、離脱なし(0.5%)と比べ死亡率が高くなっており、ヘルメットの非着用や不適切な着用在被害を大きくしています。

6 レンタカー事故発生状況

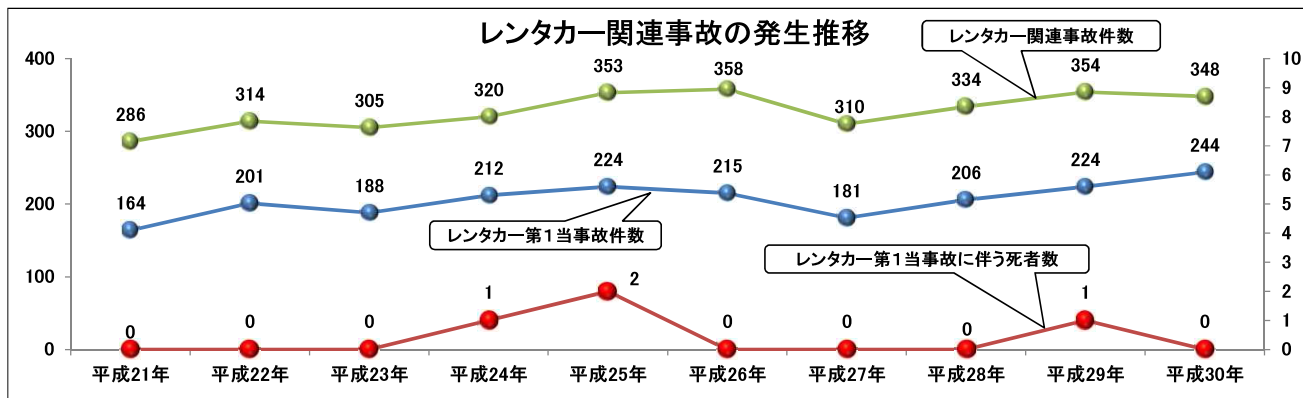
レンタカー(1・2当)関連事故件数

年 別	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	増減数	増減率	指数
レンタカー関連事故発生件数	286	314	305	320	353	358	310	334	354	348	-6	-1.7	122
レンタカー第1当事故	164	201	188	212	224	215	181	206	224	244	20	8.9	149
死者数				1	2				1		-1	-100.0	
負傷者数	222	286	282	301	335	309	241	290	280	339	59	21.1	153
うち重傷者	8	27	18	24	17	22	18	21	31	29	-2	-6.5	363
うち軽傷者	214	259	264	277	318	287	223	269	249	310	61	24.5	145

※ 関連事故発生件数は、レンタカーが第1当事者、第2当事者いずれの場合も関係した事故を含む。

※ レンタカー第1当事故は、レンタカーが第1当事者となった事故件数。

※ 死者数、重傷者数、軽傷者数は、レンタカーが第1当事者の交通事故に伴う死傷者数。



平成30年中のレンタカーが関係した事故は348件で、前年に比べ6件(1.7%)減少しました。

また、レンタカーが原因となった事故(第1当事故)は244件で、前年と比べ20件(8.9%)増加しましたが、事故に伴う死者はありませんでした。

レンタカー(1・2当)関連事故の発生件数の多い市町村

	市町村	全事故	レンタカー 関連事故	構成率
1	那 覇 市	1,142	82	7.2
2	宮 古 島 市	137	37	27.0
3	名 護 市	198	32	16.2
4	沖 縄 市	458	19	4.1
4	石 垣 市	97	19	19.6
	全 体	4,435	348	7.8

レンタカー(1・2当)関連事故の構成率が多い市町村

	市町村	全事故	レンタカー 関連事故	構成率
1	本 部 町	28	12	42.9
2	今 帰 仁 村	12	5	41.7
3	大 宜 味 村	3	1	33.3
4	恩 納 村	48	13	27.1
5	宮 古 島 市	137	37	27.0
6	東 頭 村	4	1	25.0
7	国 頭 村	9	2	22.2
8	石 垣 市	97	19	19.6
9	名 護 市	198	32	16.2
10	読 谷 村	73	10	13.7
	全 体	4,435	348	7.8

レンタカーが関係した事故は、那覇市が82件で最も多く、次いで宮古島市37件、名護市32件の順となっています。

また、人身事故に占めるレンタカーが関係した事故の構成率が最も高いのは、本部町42.9%で、次いで今帰仁村41.7%、大宜見村33.3%、恩納村27.1%の順となっており、本島北部地域や離島においてレンタカー関連事故の構成率が高くなっています。

7 自転車事故発生状況

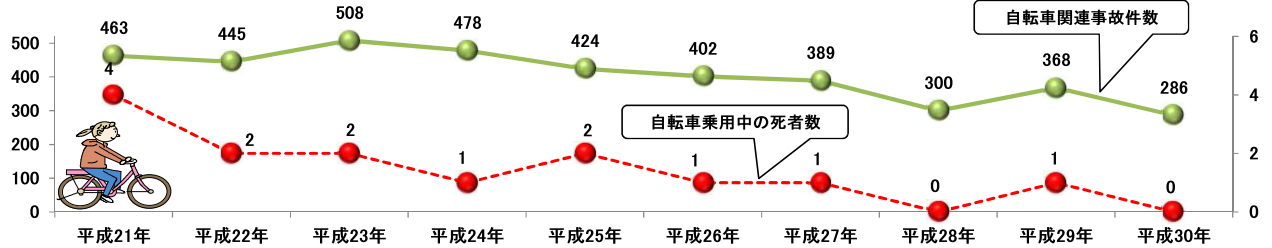
自転車関連の事故件数

年 別	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	増減数	増減率	指数
自転車関連事故発生件数	463	445	508	478	424	402	389	300	368	286	-82	-22.3	62
死者数	4	2	2	1	2	1	1		1		-1	-100.0	
負傷者数	465	447	514	474	420	398	384	296	361	281	-80	-22.2	60
うち重傷者	58	60	62	51	56	45	55	34	43	53	10	23.3	91
うち軽傷者	407	387	452	423	364	353	329	262	318	228	-90	-28.3	56

※ 関連事故発生件数は、自転車が第1当事者、第2当事者以下いずれの場合も関係した事故を含む。

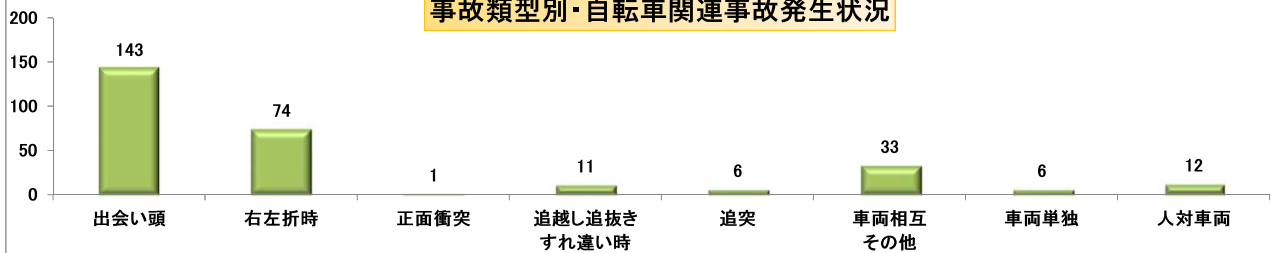
※ 死者数、負傷者数は、交通事故により自転車に乗車中の者が死傷した人数。

自転車関連事故の発生推移



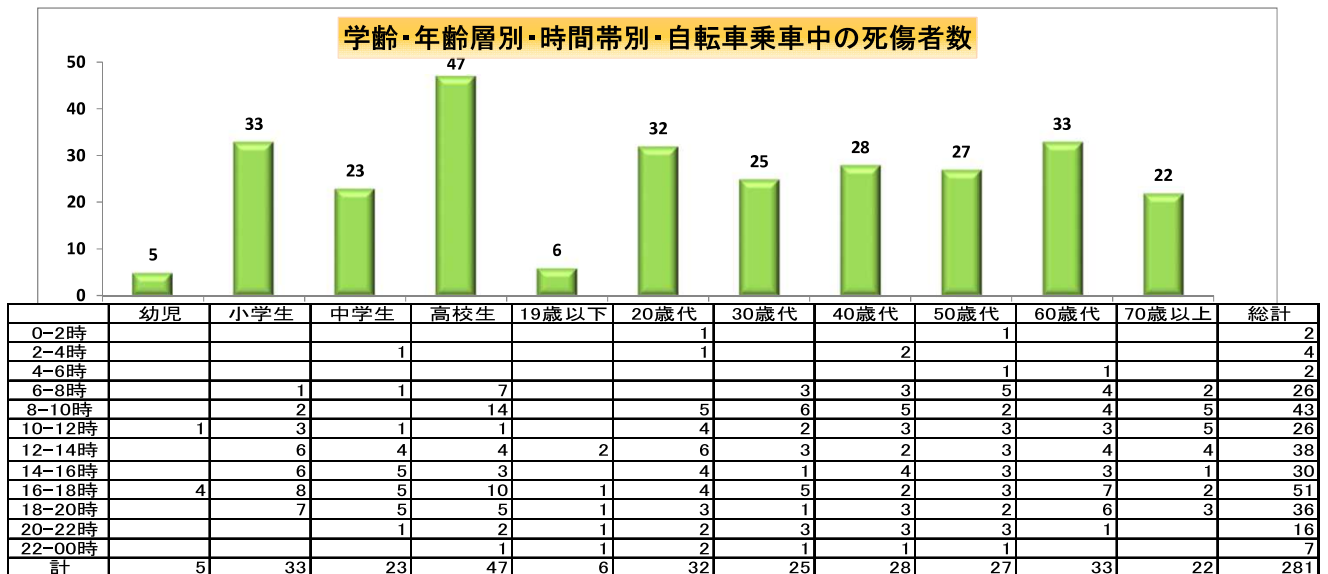
平成30年中の自転車が関係した事故は286件で、前年に比べ82件減少し、自転車乗車中の死者はありませんでした。

事故類型別・自転車関連事故発生状況



平成30年中の自転車が関係した事故は、出会い頭事故が最も多く、次いで右左折時事故となっており、両方で自転車関連事故の7割以上(75.9%)を占めています。

学齢・年齢層別・時間帯別・自転車乗車中の死傷者数



学齢と年齢層別に死傷者数をみると、高校生が最も多く、次いで小学生と60歳代が多くなっています。

時間帯別は、全体で通勤、通学時間帯に死傷者数が多くなる傾向がありますが、小学生は放課後、又は帰宅中の時間帯(16時～18時)が最も多くなっています。

8 歩行者の事故発生状況

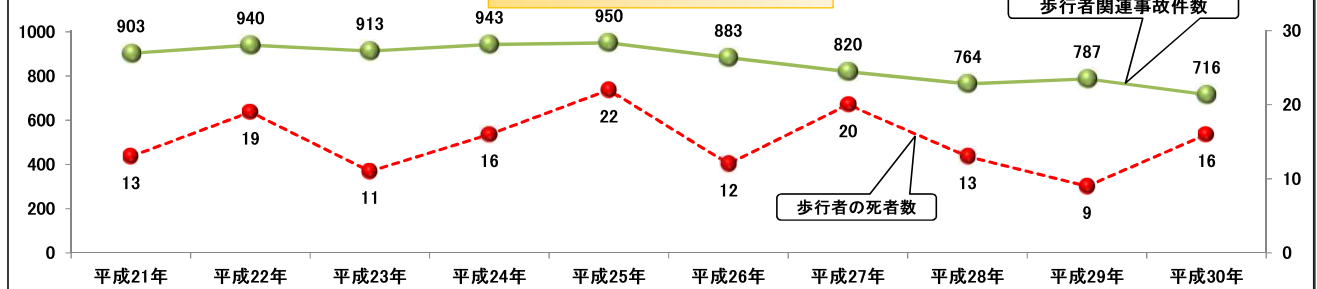
歩行者関連の事故件数

年 別	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	増減数	増減率	指数
歩行者関連事故発生件数	903	940	913	943	950	883	820	764	787	716	-71	-9.0	79
死者数	13	19	11	16	22	12	20	13	9	16	7	77.8	123
負傷者数	910	947	920	948	951	896	818	774	788	714	-74	-9.4	78
うち重傷者	218	205	212	206	222	183	152	187	198	180	-18	-9.1	83
うち軽傷者	692	742	708	742	729	713	666	587	590	534	-56	-9.5	77

※ 関連事故発生件数は、歩行者が第1当事者、第2当事者以下いずれの場合も関係した事故を含む。

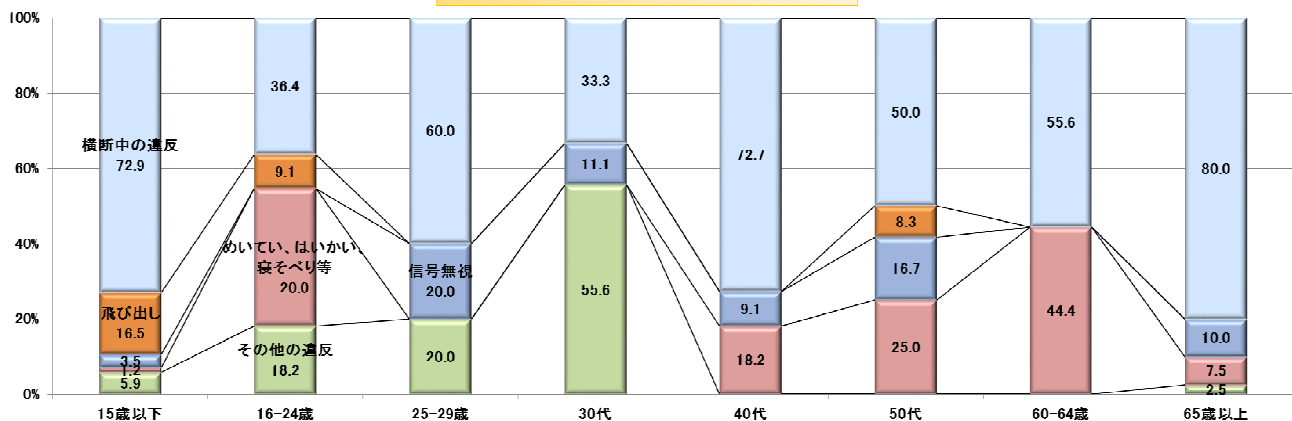
※ 死者数、負傷者数は、交通事故により死傷した歩行者の人数。

歩行者関連事故の発生推移



平成30年中の歩行者が関係した事故は716件で、前年に比べ71件(9.0%)減少しましたが、死者は16人で、前年に比べ7人(77.8%)増加しました。

違反あり歩行中死傷者の年齢層別・違反別構成



法令違反		15歳以下	16-24歳	25-29歳	30代	40代	50代	60-64歳	65歳以上	総計
横断中の違反	横断歩道外横断	13	1	2	1	4	5	2	20	48
	斜め横断	1				1		1	2	5
	走行車両の直前直後の横断	37	3	1	1	1			6	49
	駐停車車両の直前直後の横断	11				2			1	14
	横断禁止場所の横断				1		1	2	3	7
計		62	4	3	3	8	6	5	32	123
飛び出し		14	1				1			16
信号無視		3		1	1	1	2		4	12
めいてい、はいかい、寝そべり等		1	4			2	3	4	3	17
その他の違反		5	2	1	5				1	14
違反あり合計		85	11	5	9	11	12	9	40	182
調査不能					1					1
違反なし		92	37	24	61	54	64	42	173	547
総計		239	52	32	74	73	82	56	245	853

構成率	全死者に占める歩行中の死者				50.0	33.3		100.0	50.0	42.1
	全負傷者に占める歩行中の負傷者	39.2	5.7	5.7	6.7	7.5	11.0	18.0	29.9	13.4

違反が認められた歩行者を年齢層別で見ると、15歳以下が4割以上で最も多く、次いで65歳以上となっています。また、違反別では横断中の違反が7割を占めています。

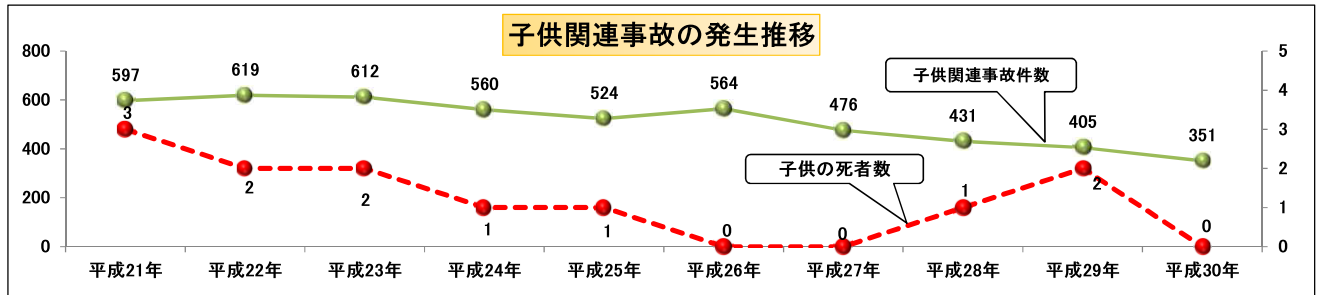
9 子供(中学生以下)の事故発生状況

子供関連の事故件数

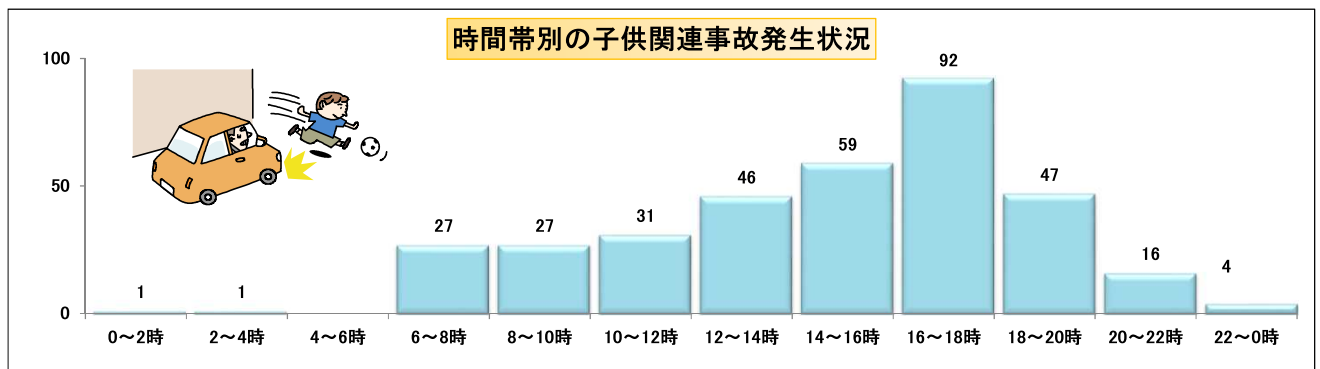
年 別	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	増減数	増減率	指数
子供関連事故発生件数	597	619	612	560	524	564	476	431	405	351	-54	-13.3	59
死者数	3	2	2	1	1			1	2		-2	-100.0	
負傷者数	668	698	669	630	583	667	533	499	461	411	-50	-10.8	62
うち重傷者	58	59	60	50	50	42	46	38	49	35	-14	-28.6	60
うち軽傷者	610	639	609	580	533	625	487	461	412	376	-36	-8.7	62

※ 関連事故発生件数は、子供が第1当事者、第2当事者以下いずれの場合も関係した事故を含む。

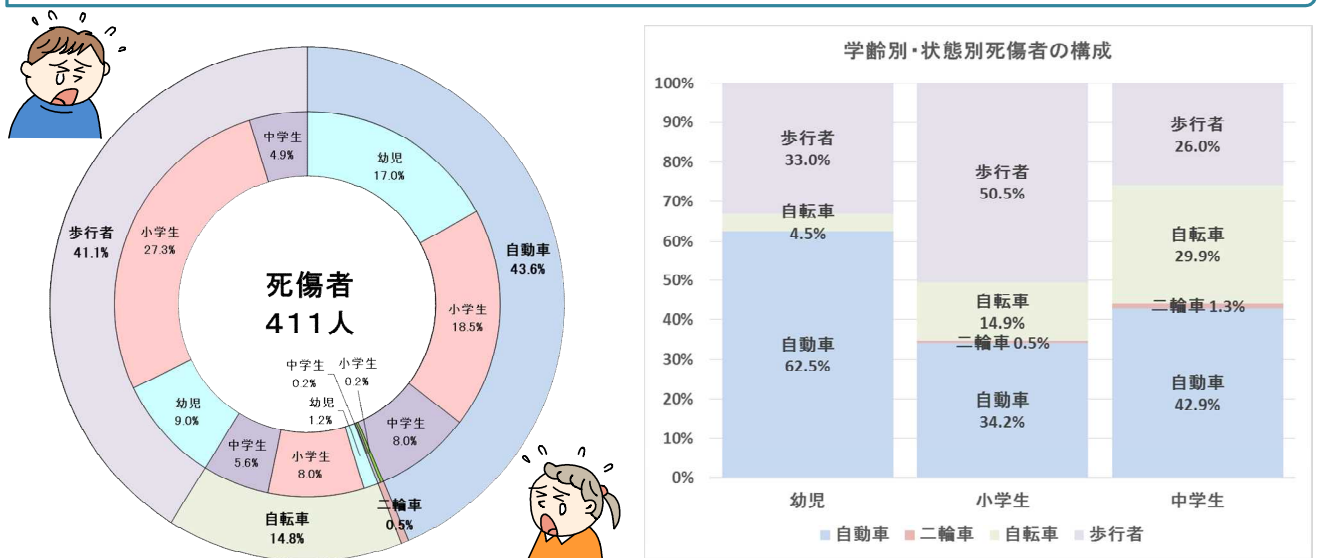
※ 死者数、負傷者数は、交通事故により死傷した子供の人数。



平成30年中の子供が関係した事故は351件で、前年に比べ54件減少し、子供の死者はありませんでした。



時間帯別の子供が関係した事故は、放課後の16時～18時の時間帯に最も多く発生しています。



自動車乗車中の死傷者は43.6%で最も多く、次いで歩行者の死傷者が多くなっています。
幼児と中学生は、自動車乗車中が最も多く、小学生は、歩行中が最も多くなっています。

10 高校生の事故発生状況

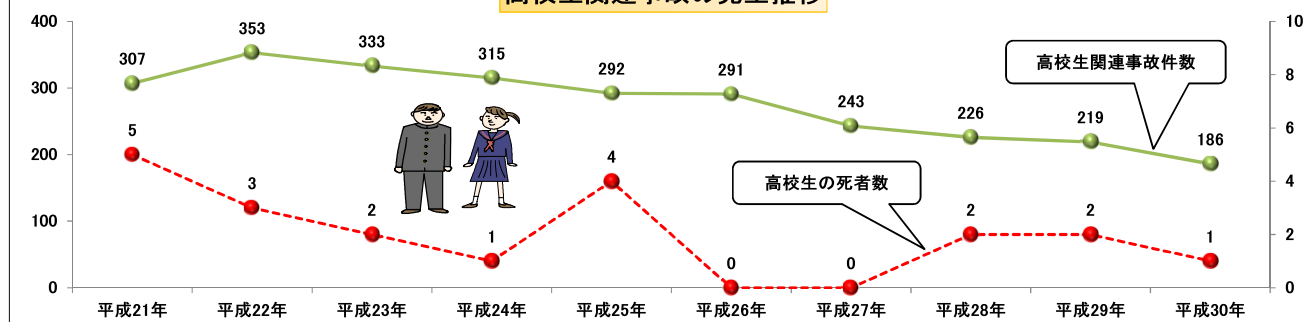
高校生関連の事故件数

年 別	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	増減数	増減率	指数
高校生関連事故発生件数	307	353	333	315	292	291	243	226	219	186	-33	-15.1	61
死者数	5	3	2	1	4			2	2	1	-1	-50.0	20
負傷者数	294	322	315	298	270	265	236	200	191	195	4	2.1	66
うち重傷者	44	48	55	41	35	34	39	27	18	21	3	16.7	48
うち軽傷者	250	274	260	257	235	231	197	173	173	174	1	0.6	70

※ 関連事故発生件数は、高校生が第1当事者、第2当事者以下のいずれの場合も関係した事故を含む。

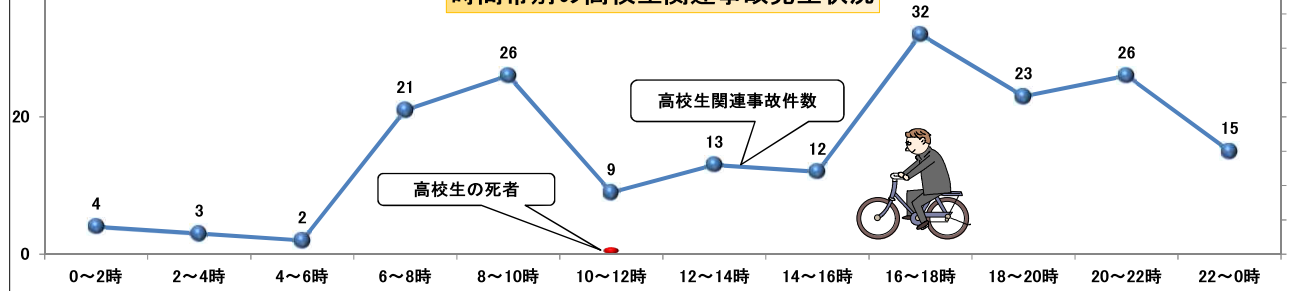
※ 死者数、負傷者数は、交通事故により死傷した高校生の人数。

高校生関連事故の発生推移



平成30年中の高校生が関係した事故は186件で、前年に比べ33件(15.1%)減少し、高校生の死者は1人でした。

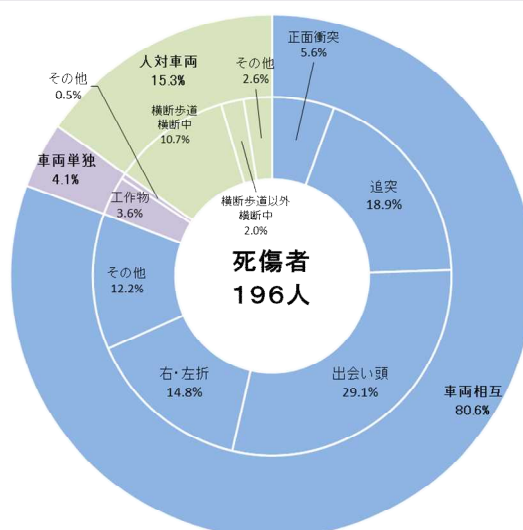
時間帯別の高校生関連事故発生状況



時間帯別の高校生が関係した事故は、下校後の16時～18時までの時間帯に最も多く発生し、次いで朝の登校時間帯の8時～10時と20時～22時の時間帯に多く発生しています。

高校生の事故類型別・状態別死傷者数

事故類型	自動車	二輪車	自転車	歩行者	総計
正面衝突	8	3			11
追突	29	8			37
出会い頭	3	30	24		57
追越追抜時		1	2		3
すれ違い時	1				1
左折時		2	9		11
右折時	1	12	5		18
車両相互 その他	5	8	7		20
計	47	64	47		158
工作物	4	3			7
駐車車両(運転者不在)					
転倒		1			1
その他					
計	4	4			8
横断歩道横断中				21	21
横断歩道以外横断中		1		3	4
人対車両 その他				5	5
計		1		29	30
総 計	51	69	47	29	196



事故類型別・状態別死傷者では、二輪乗車中の出会い頭事故が最も多く、次いで自動車乗車中の追突となっています。また、高校生の死傷者は、二輪乗車中(69人、35.2%)が最も多くなっています。

11 若年者(16歳～24歳)の事故発生状況

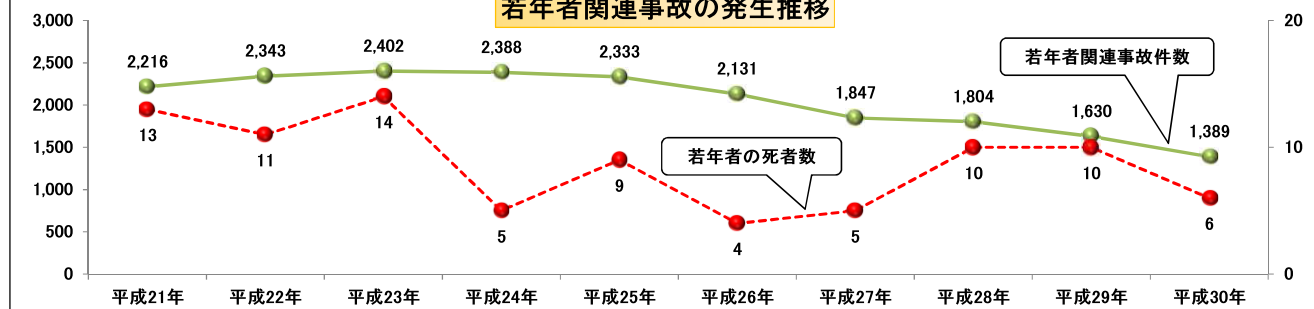
若年者関連の事故件数

年 別	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	増減数	増減率	指数
若年者関連事故発生件数	2,216	2,343	2,402	2,388	2,333	2,131	1,847	1,804	1,630	1,389	-241	-14.8	63
死者数	13	11	14	5	9	4	5	10	10	6	-4	-40.0	46
負傷者数	1,480	1,513	1,538	1,524	1,429	1,297	1,095	1,081	990	845	-145	-14.6	57
うち重傷者	174	176	150	165	142	108	116	118	98	90	-8	-8.2	52
うち軽傷者	1,306	1,337	1,388	1,359	1,287	1,189	979	963	892	755	-137	-15.4	58

※ 関連事故発生件数は、若年者が第1当事者、第2当事者以下いずれの場合も関係した事故を含む。

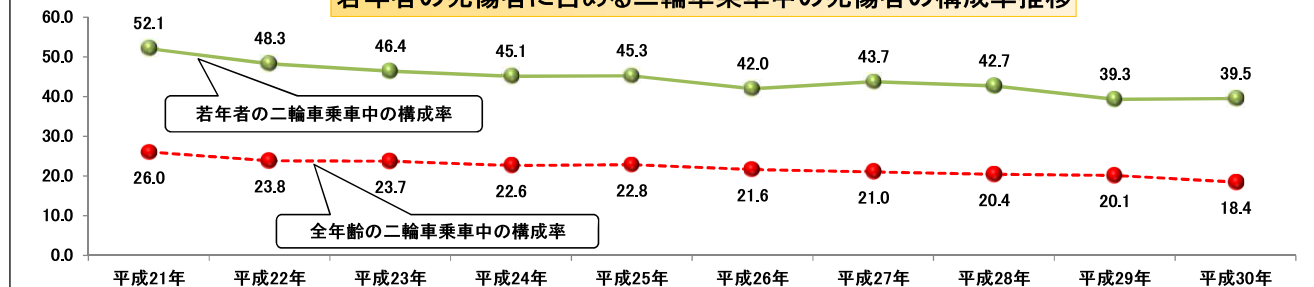
※ 死者数、負傷者数は、交通事故により死傷した若年者の人数。

若年者関連事故の発生推移



平成30年中の若年者が関係した事故は1,389件発生し、前年に比べ241件(14.8%)減少し、若年者の死者は6人でした。

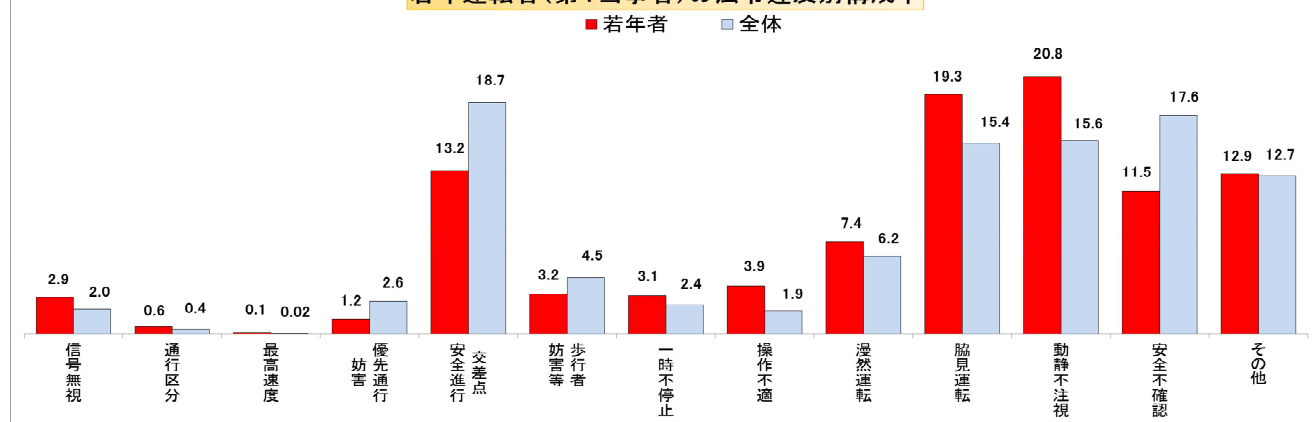
若年者の死傷者に占める二輪車乗車中の死傷者の構成率推移



平成30年中の若年者の死傷者(851人)のうち、二輪車乗車中の死傷者は336人(死傷者に占める構成率39.5%)で、全年齢(同18.4%)の約2倍も高くなっています。

また、若年者の死者6人のうち、5人は二輪車乗車中となっており、過去の推移をみても、若年者は二輪車乗車中に死傷する割合が高くなっています。

若年運転者(第1当事者)の法令違反別構成率



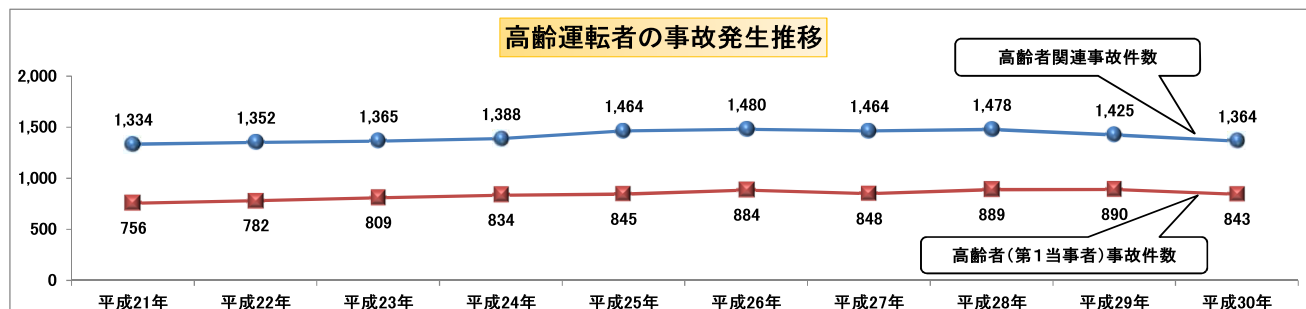
平成30年中の若年運転者(第1当事者)の法令違反は、動静不注視と脇見運転が40.1%を占めており、両者は全体(全年齢)の構成と比べても高い割合となっています。

12 高齢者(65歳以上)の事故発生状況

高齢者関連の事故件数													
年 別	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	増減数	増減率	指数
高齢者関連事故発生件数	1,334	1,352	1,365	1,388	1,464	1,480	1,464	1,478	1,425	1,364	-61	-4.3	102
死者数	12	19	11	11	12	9	15	13	11	20	9	81.8	167
負傷者数	757	754	751	751	828	804	764	734	728	679	-49	-6.7	90
うち重傷者	165	182	168	145	159	162	134	157	166	164	-2	-1.2	99
うち軽傷者	592	572	583	606	669	642	630	577	562	515	-47	-8.4	87

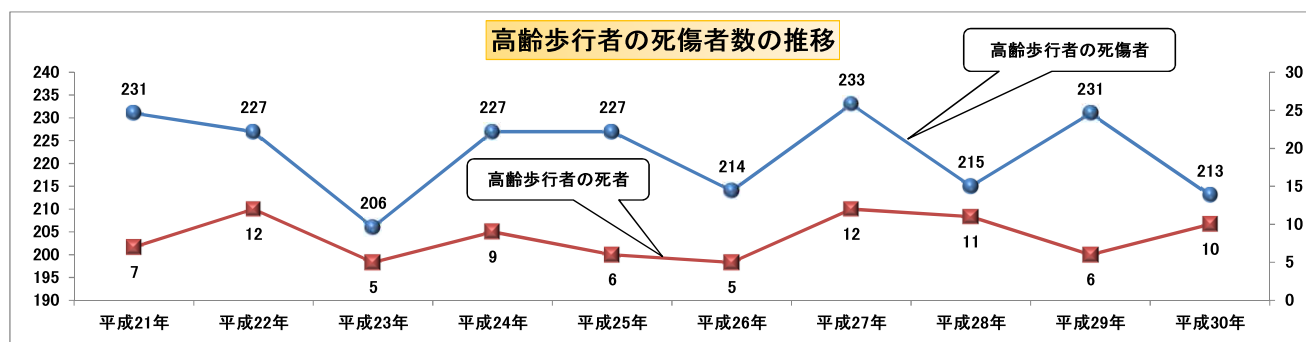
※ 関連事故発生件数は、高齢者が第1当事者、第2当事者以下いずれの場合も関係した事故を含む。

※ 死者数、負傷者数は、交通事故により死傷した高齢者の人数。

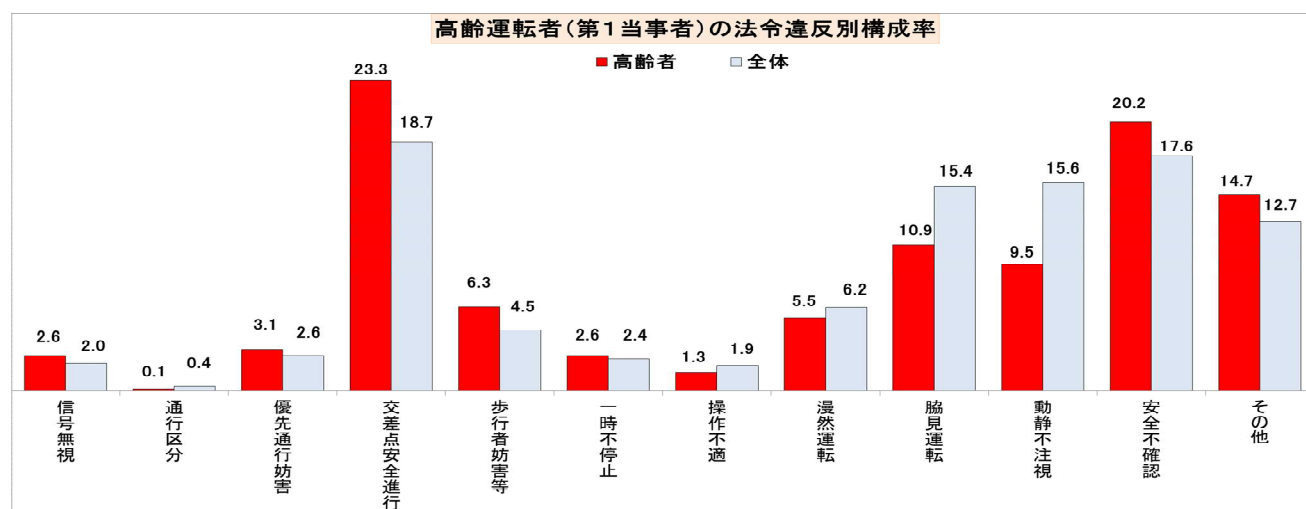


※ 高齢者事故件数は、車両運転中の高齢者が第1当事者となった交通事故件数。

平成30年中の高齢者が関係した事故は1,364件で、前年に比べ61件(4.3%)の減少となっています。
また、高齢運転者が原因(第1当事者)となった事故は843件となっています。



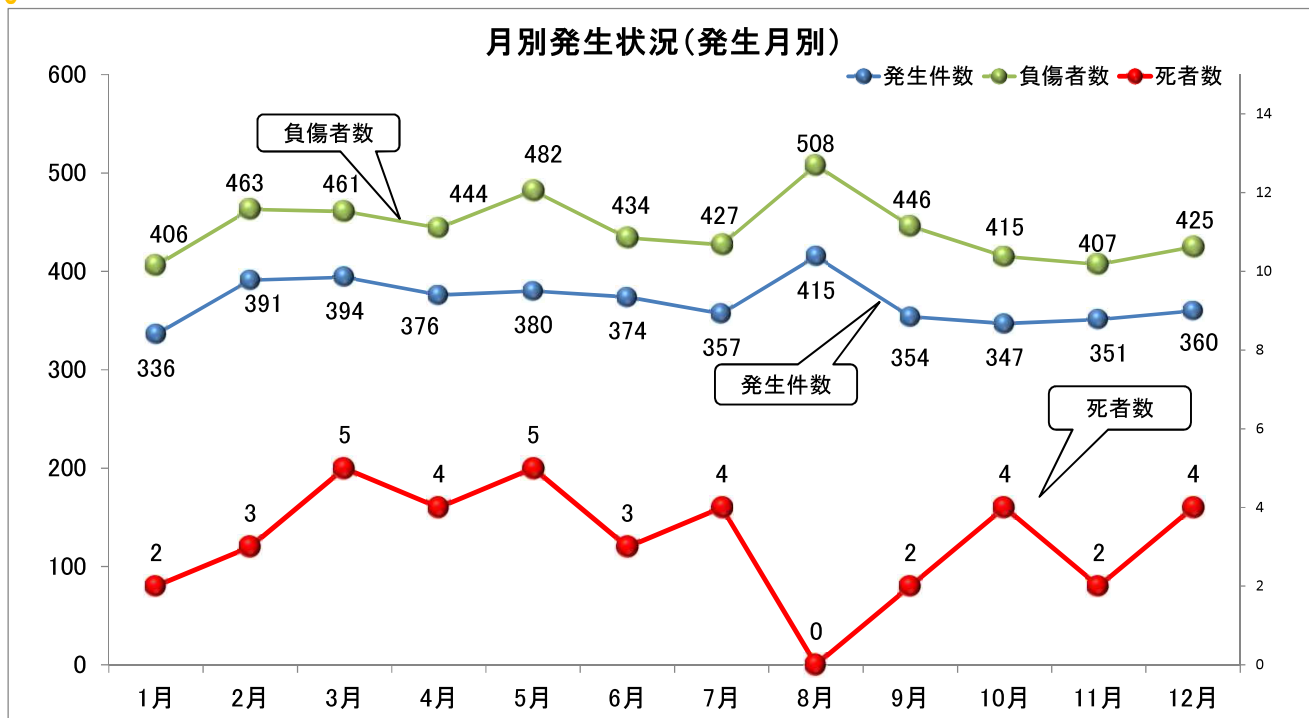
平成30年中の高齢歩行者の死傷者は213人で、うち死者は10人となっており、前年に比べ4人の増加となっています。



高齢運転者(第1当事者)の法令違反は、全体(全年齢)と比べ、信号無視、優先通行妨害、交差点安全進行義務違反、歩行者妨害等、一時不停止、安全不確認、その他の割合が高くなっています。

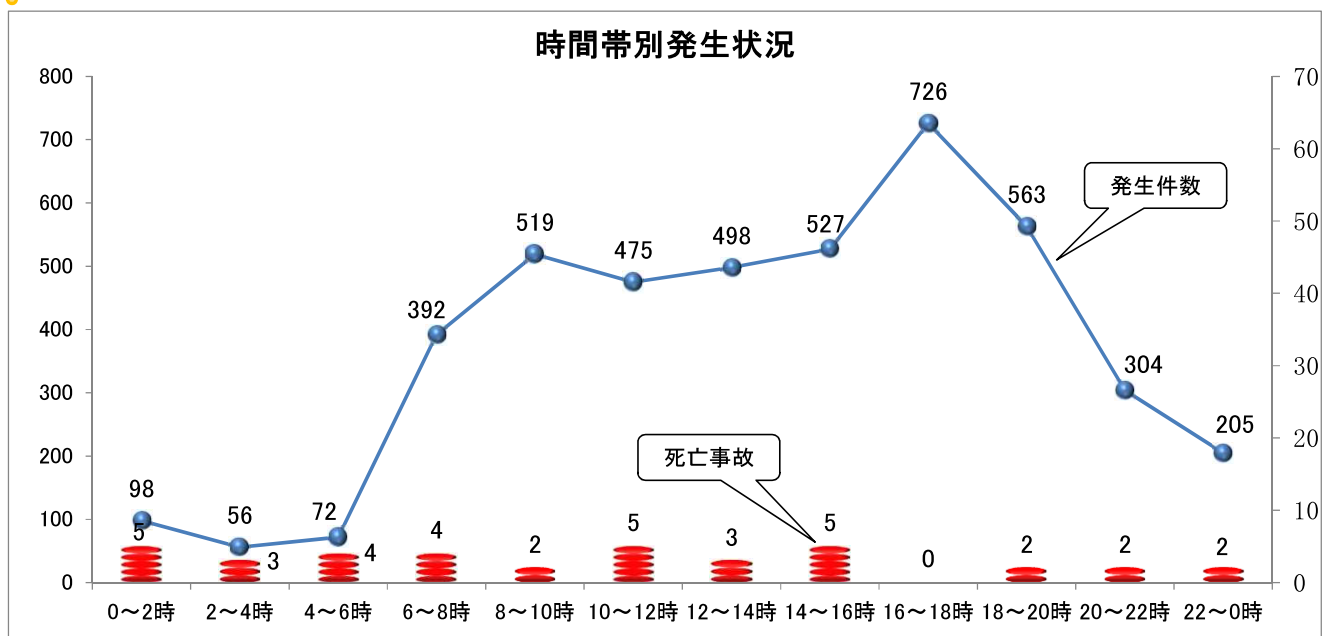
第2 平成30年中の交通事故発生状況

13 月別発生状況



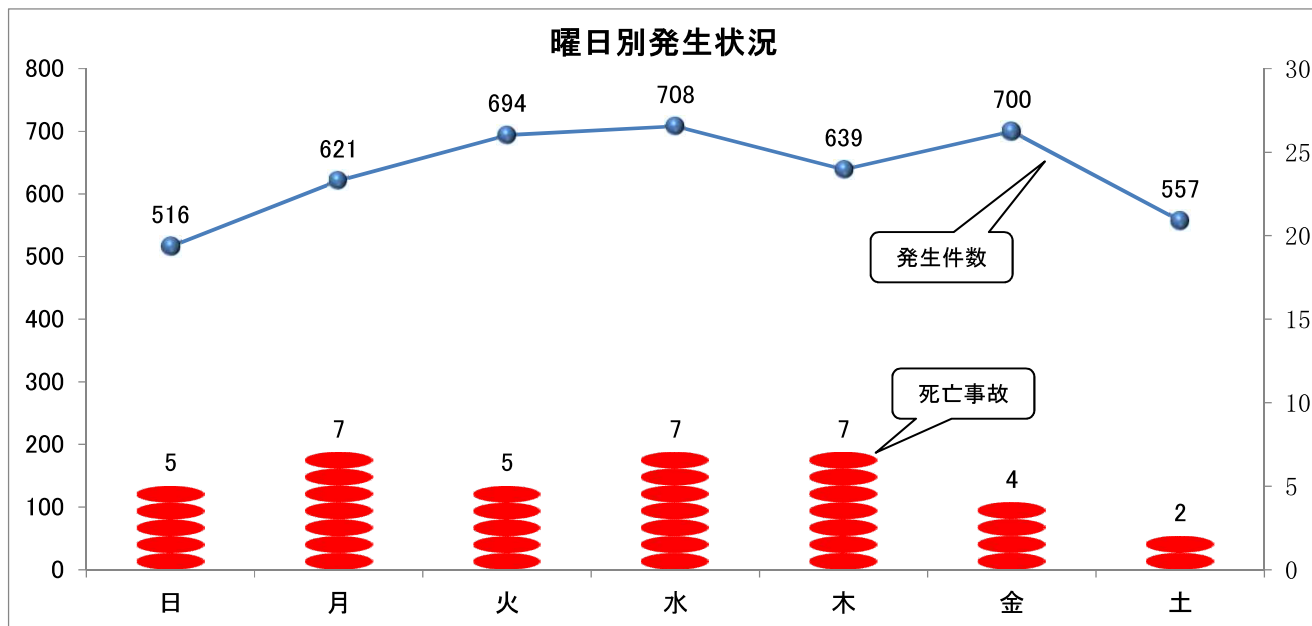
発生件数は、1ヶ月平均約370件で、8月(415件)が最も多く、1月(336件)が最も少なくなっています。
死者数は、3月と5月が5人で最も多く、8月の死者はありませんでした。

14 時間帯別発生状況



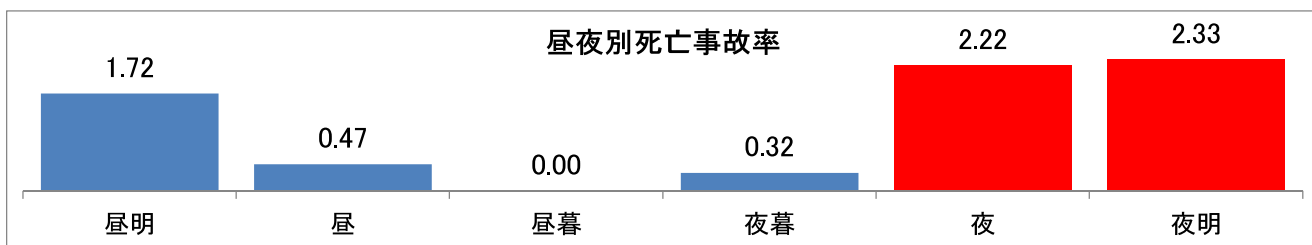
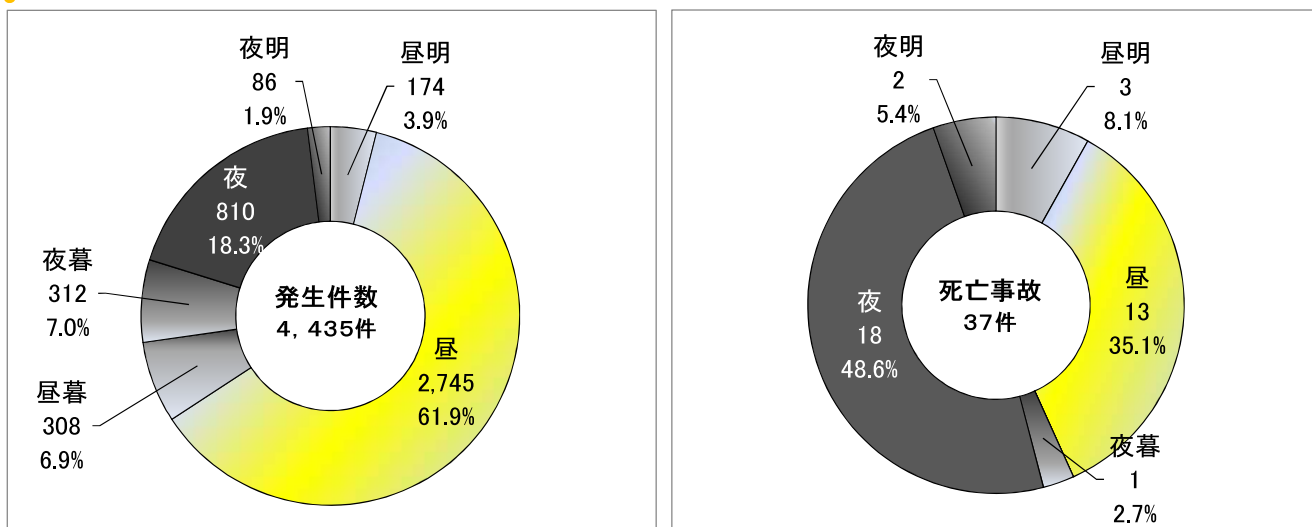
発生件数は、下校・帰宅時間帯(16時～18時)が最も多く、次いで登校・出勤時間帯(8時～10時)となっています。
死亡事故は0時～2時、10時～12時、14時～16時の時間帯に最も多くなっています。

15 曜日別発生状況



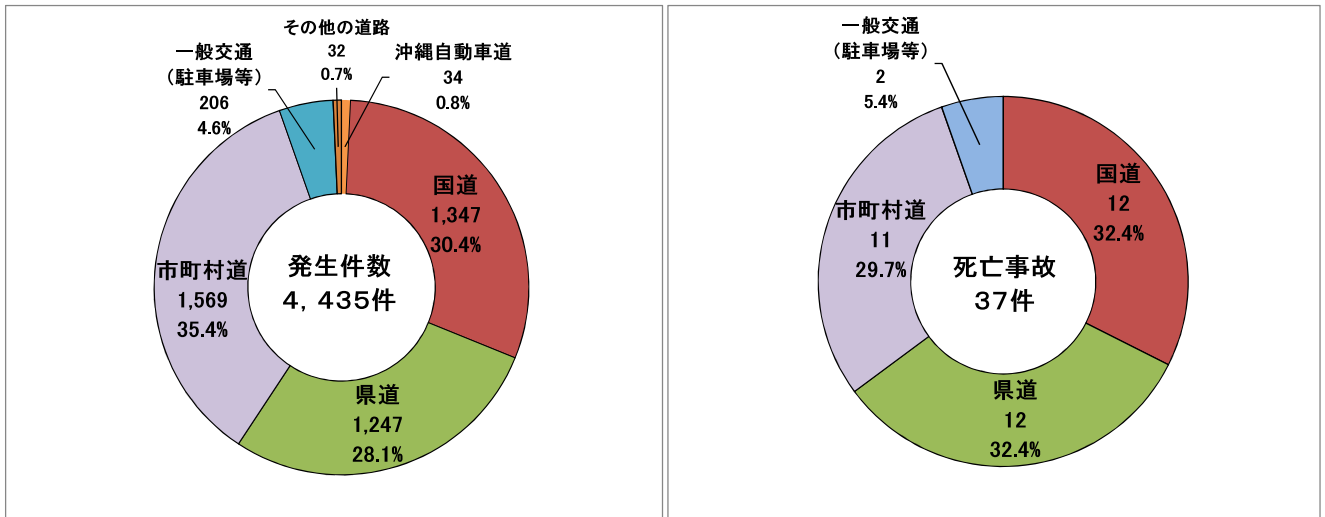
発生件数は、水曜日(708件)が最も多く、日曜日(516件)が最も少なくなっています。
死亡事故は、平日(月～木曜日)に約7割(70.3%)発生し、土曜日(2件)が最も少なくなっています。

16 昼夜別発生状況



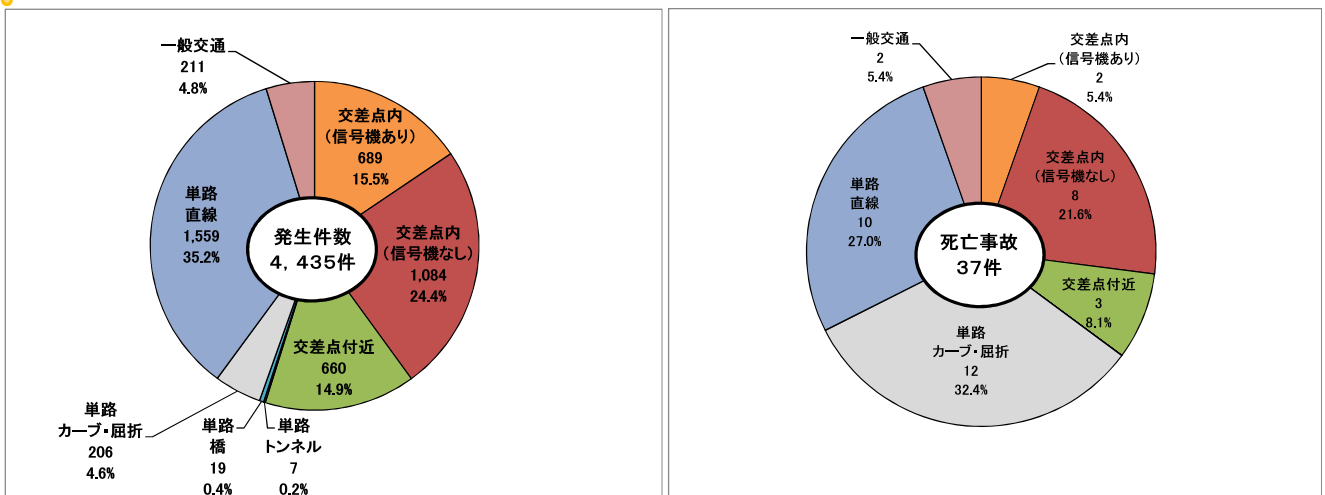
発生件数は、昼(2,745件)が最も多く、薄暮時間帯(昼明、昼暮)を含む昼間の事故は、72.7%を占めています。
死亡事故は、夜(18件)が最も多く、薄暮時間帯(夜暮、夜明)を含む夜間の死亡事故は、56.7%を占めています。
死亡事故率は、夜明(2.33%)が最も高く、次いで夜(2.22%)となっています。

17 路線別発生状況

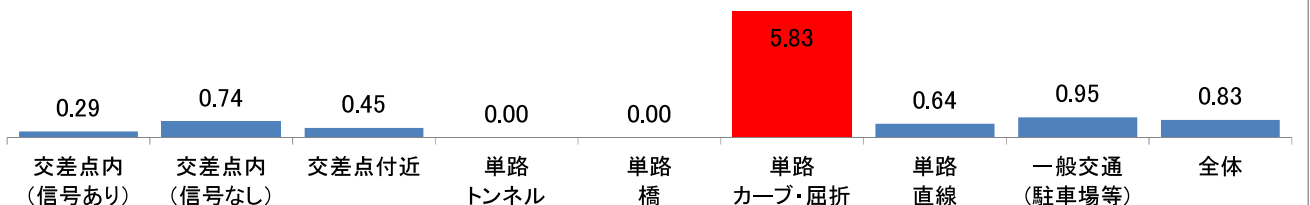


発生件数は、市町村道(1,569件)が最も多く、次いで国道(1,347件)となっています。
死亡事故は、国道と県道(各12件)が最も多くなっています。

18 道路形状別発生状況



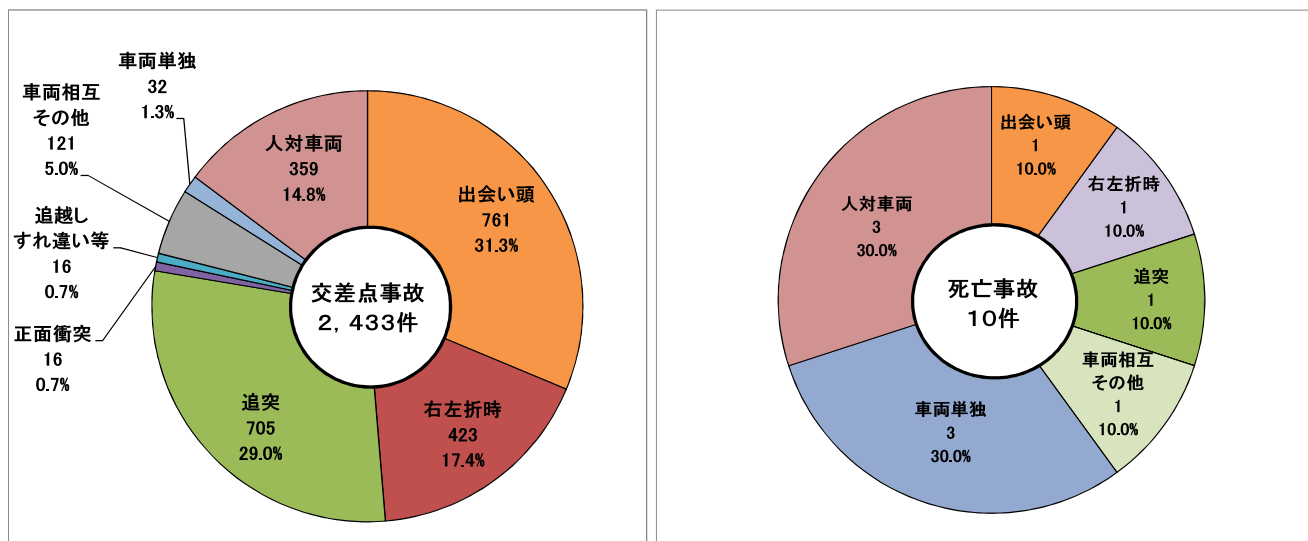
道路形状別死亡事故率



発生件数は、単路直線(1,559件)が最も多く、次いで信号機のない交差点内(1,084件)、信号機のある交差点内(689件)となっています。
死亡事故は、単路のカーブ・屈折(12件)が最も多く、全体の32.4%を占めています。
死亡事故率は、単路のカーブ・屈折(5.83%)が最も高くなっています。

19 交差点事故発生状況

交差点(付近を含む)事故の事故類型別発生状況



交差点事故(交差点付近を含む)は、出会い頭(761件)が最も多く、次いで追突(705件)、右左折時(423件)の順となっており、これらで約8割(77.6%)を占めています。

交差点事故の発生件数が多い市町村

市町村名	発生件数	事故類型の内訳									
		交差点事故	構成率	出会い頭	右左折時	追突	正面衝突	追越しすれ違い時	車両相互その他	車両単独	人対車両
1 那覇市	1,142	634	55.5	175	126	153	2	5	40	7	126
2 沖縄市	458	267	58.3	91	39	77	2	2	12	6	38
3 浦添市	423	226	53.4	63	35	64			14	3	47
4 宜野湾市	341	193	56.6	44	45	74		2	5	1	22
5 うるま市	277	143	51.6	51	19	44	1	2	5	1	20
6 北谷町	196	104	53.1	29	17	39	3		9		7
7 名護市	198	95	48.0	30	17	27	3		5	2	11
8 南風原町	136	81	59.6	23	18	29			3		8
9 糸満市	126	80	63.5	28	17	14	1		2	2	16
10 宮古島市	137	75	54.7	44	3	9		1	6	1	11
全体	4,435	2,433	54.9	761	423	705	16	16	121	32	359

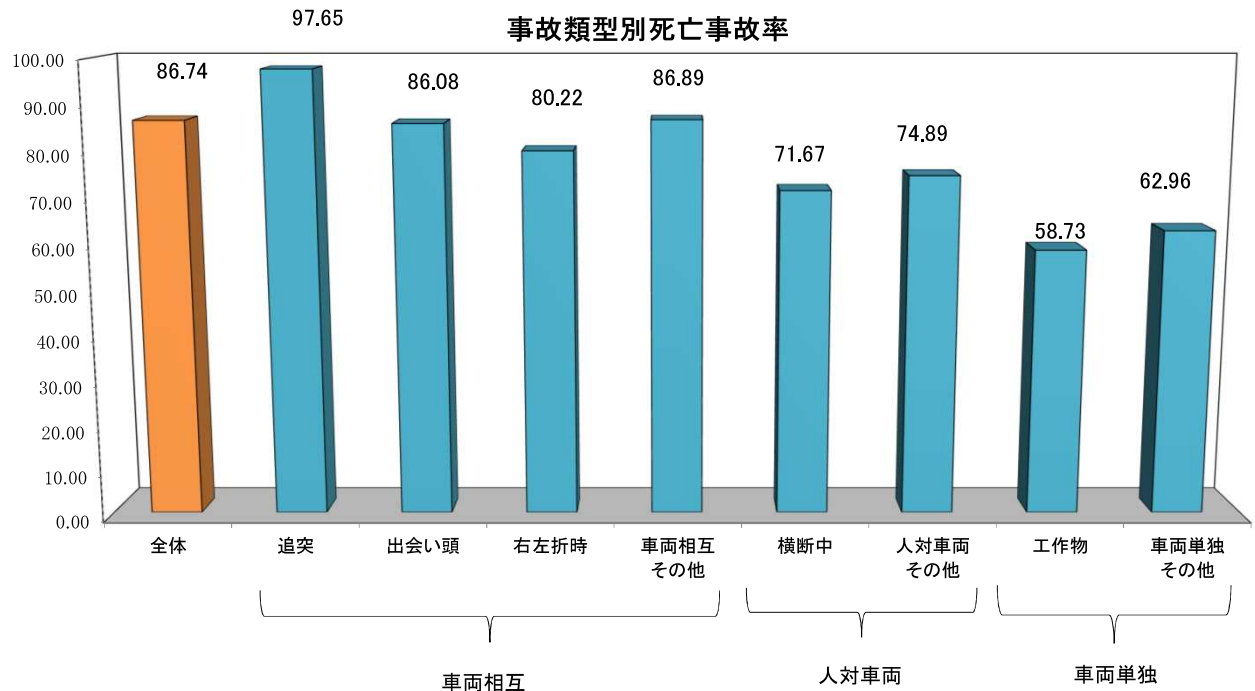
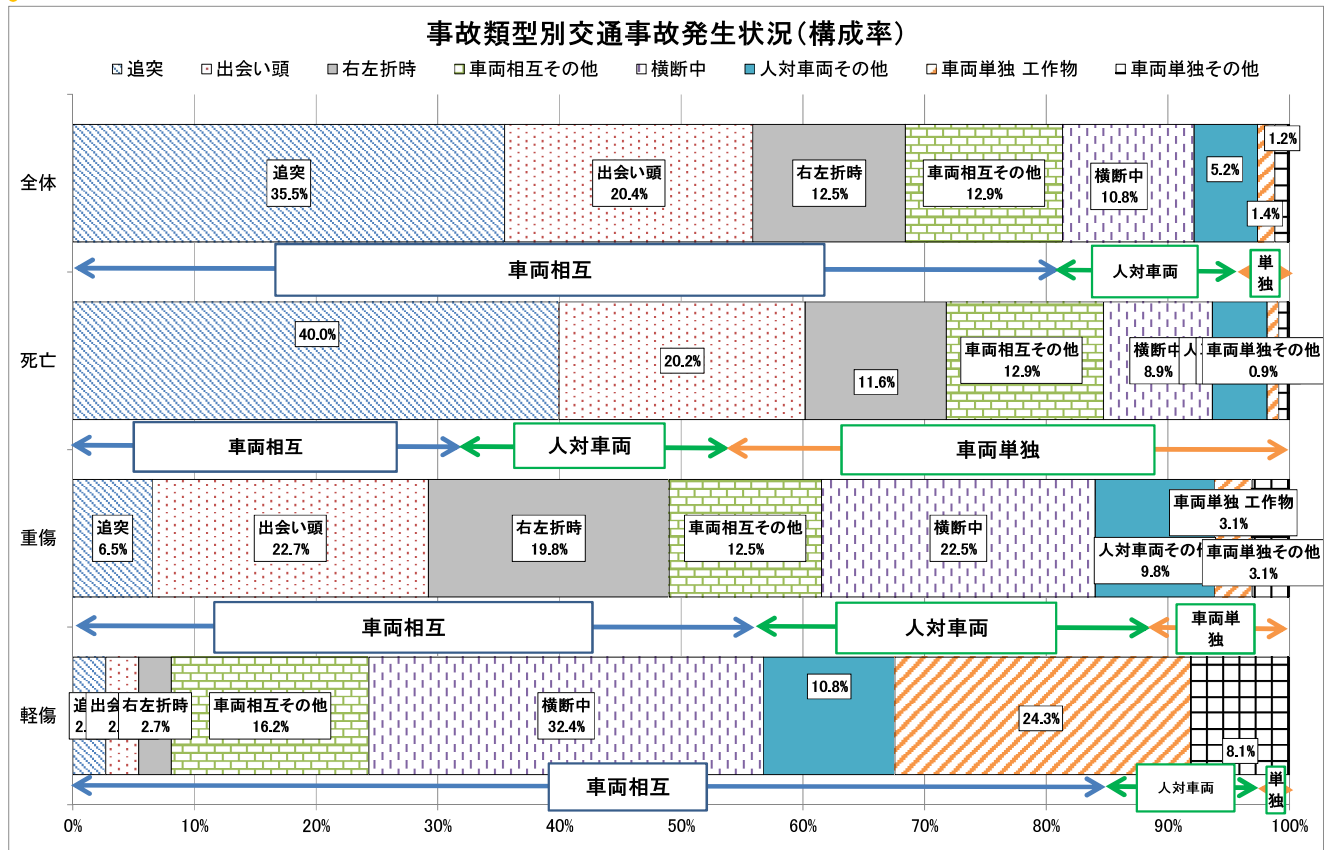
20 事故多発交差点

事故多発交差点(人身事故)

	多発交差点	管轄警察署	市区町村	主路線	発生件数	事故類型別発生件数							
						横断歩道横断中	横断歩道付近横断中	出会い頭	追突	右折直進	右折時その他	左折時	車両相互その他
1	古島インター	那覇署	那覇市	県道82号線	13			1	7	4	1		
2	安謝交差点	那覇署	那覇市	国道58号	10	1	1	1	5	1		1	
3	渡口交差点	沖縄署	北中城村	国道329号	10	1			8				1
4	旧伊佐交差点	宜野湾署	宜野湾市	宜野湾市道	8				8				
5	津嘉山バイパス入口交差点	那覇署	那覇市	国道329号	7				1	4		1	1
5	コザ十字路	沖縄署	沖縄市	国道329号	7	2			5				
5	ライカム	沖縄署	北中城村	国道330号	7			1	5	1			

平成30年中の交差点事故は、古島インターが13件で最も多く、次いで安謝交差点と渡口交差点がそれぞれ10件、旧伊佐交差点が8件の順となっています。

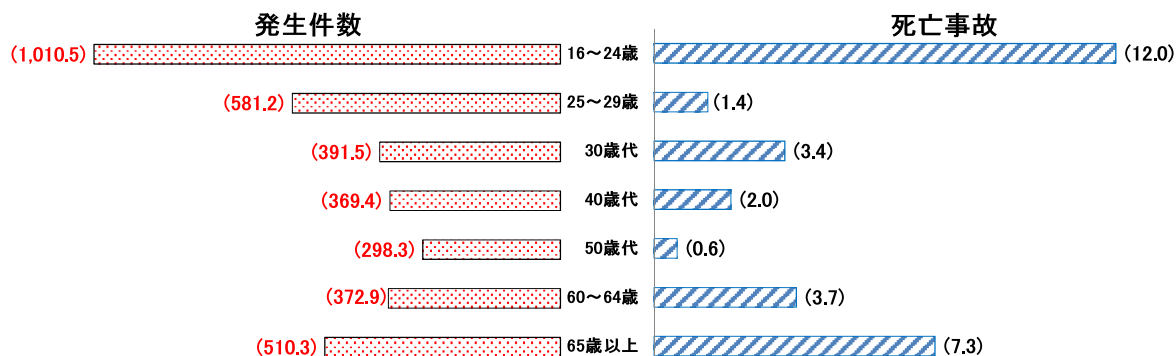
21 事故類型別発生状況



- 事故類型別の交通事故発生状況は、追突事故、出会い頭事故、右左折時が多く、全体の約7割(68.4%)を占めています。
- 死亡事故は、車両単独が32.4%、車両相互が24.3%、人対車両が43.2%となっています。
- 交通事故に占める死亡事故率は、車両単独の工作物衝突事故が14.29%と最も高く、全体(0.83%)の約17倍となっています。

22 年齢層別発生状況

原付以上運転者(第1当事者)の年齢層別運転免許保有者10万人当たり交通事故件数



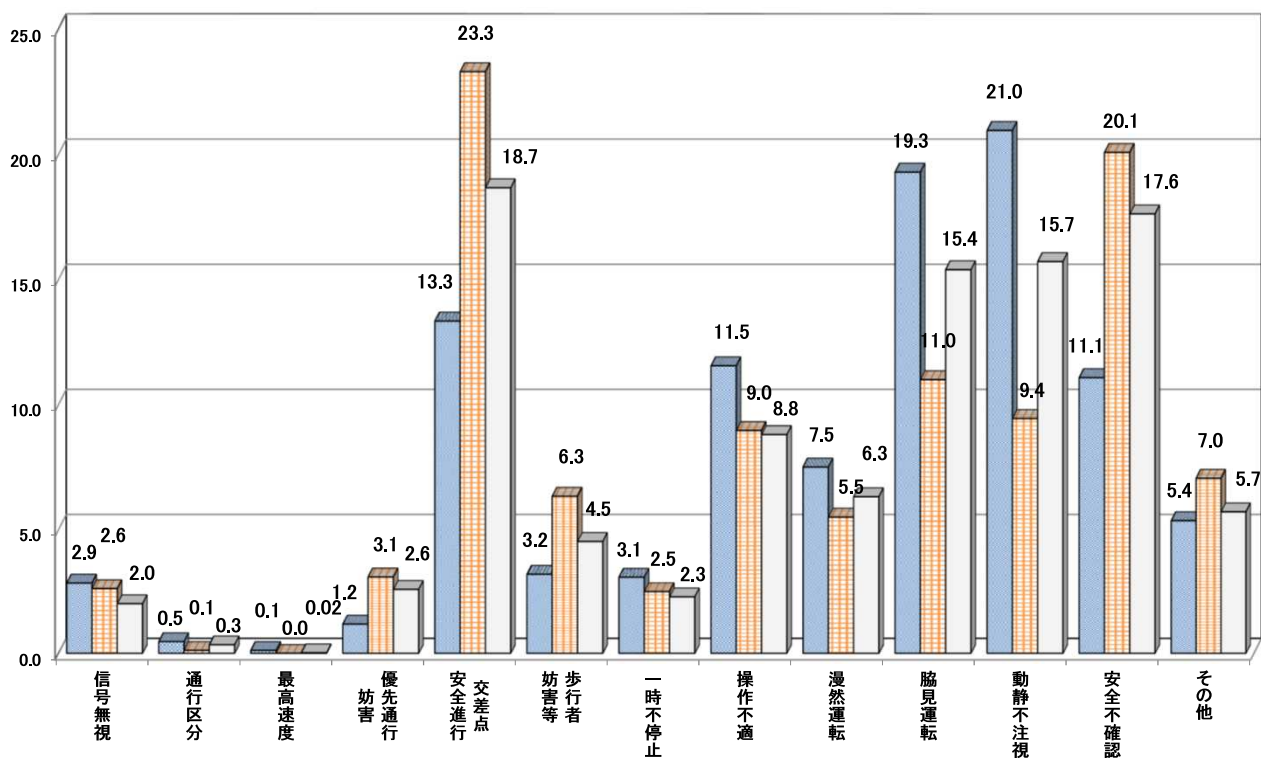
※ 上記の年齢層別の運転免許保有者数は、平成29年12月末の資料による。

- 発生件数は、若年者(16～24歳)(1,010.5件)が最も多く、次いで25～29歳(581.2件)となっています。
- 死亡事故は、若年者(12.0件)が最も多く、次いで65歳以上(7.3件)となっています。
- ※ 運転免許保有者10万人当たりでは、発生件数、死亡事故いずれも若年者の運転による事故が多くなっています。

23 法令違反別・年齢層別発生状況

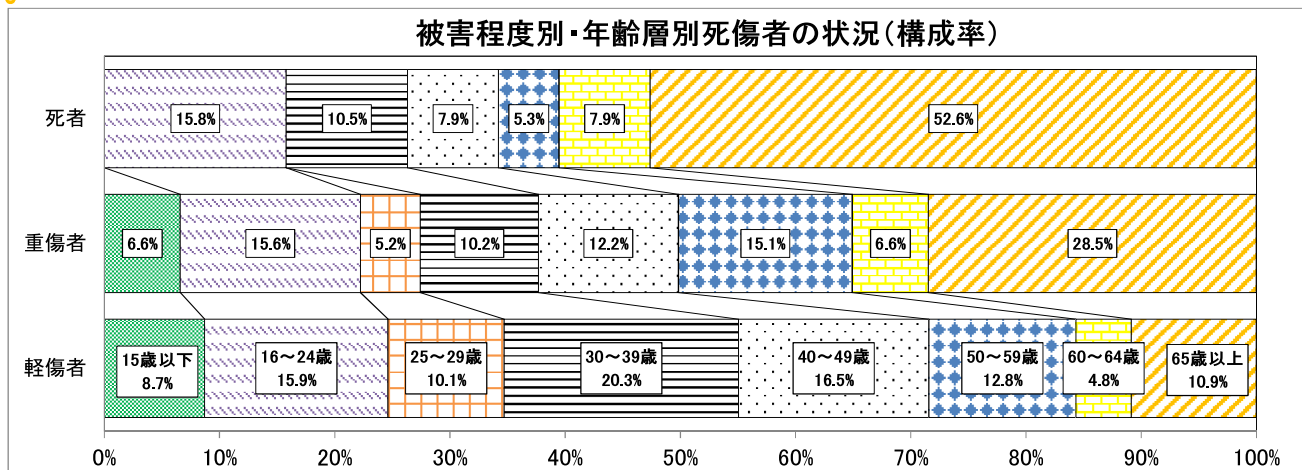
原付以上運転者(第1当事者)の法令違反別・年齢層別交通事故の構成率

■ 若年者 ■ 高齢者 □ 全体



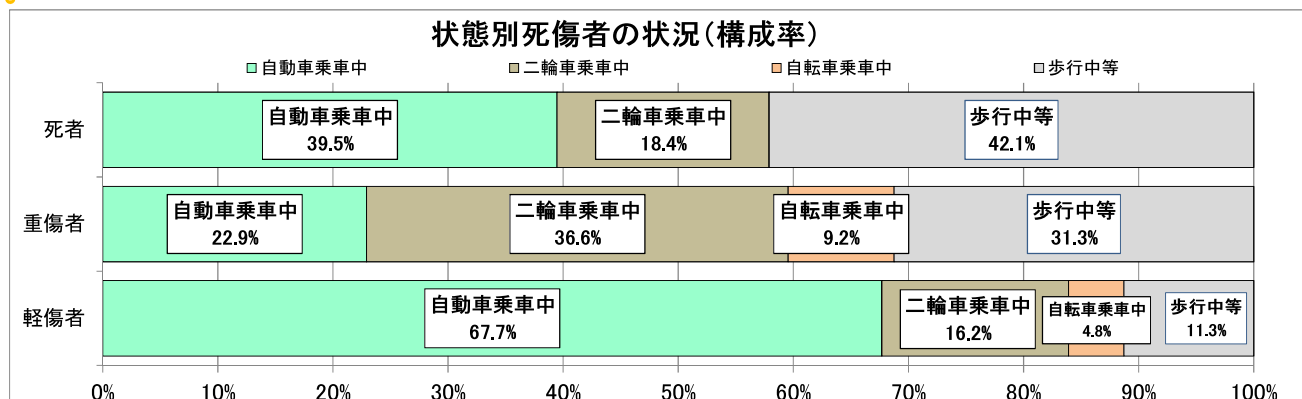
- 交通事故全体の法令違反は、交差点安全進行義務違反(18.7%)の割合が最も高く、次いで安全不確認(17.6%)の割合が高くなっています。
- 若年者(16～24歳)は、動静不注視(21.0%)、脇見運転(19.3%)の割合が高くなっています。
- 高齢者は、交差点安全進行義務違反(23.3%)、安全不確認(20.1%)等の割合が高くなっています。

24 年齢層別死傷者の状況



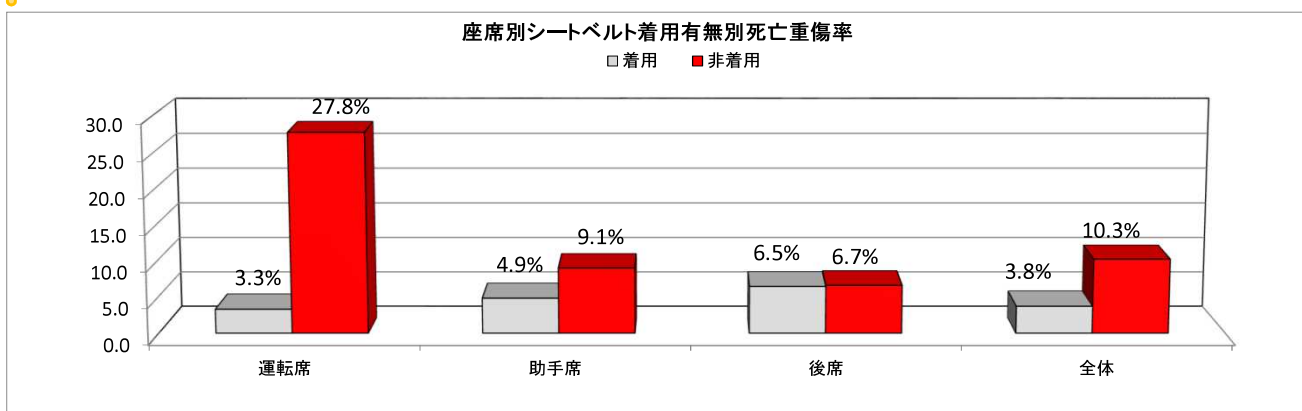
被害程度別の構成率が最も高い年齢層は、死者及び重傷者は、高齢者(65歳以上)(死者 52.6%・重傷者 28.5%)で、軽傷者は30~39歳(20.3%)となっています。

25 状態別死傷者の状況



死傷者の状態別状況は、死者は歩行中等(42.1%)の割合が最も高く、重傷者は二輪車乗車中(36.6%)、軽傷者は自動車乗車中(67.7%)が高くなっています。

26 シートベルト着用状況



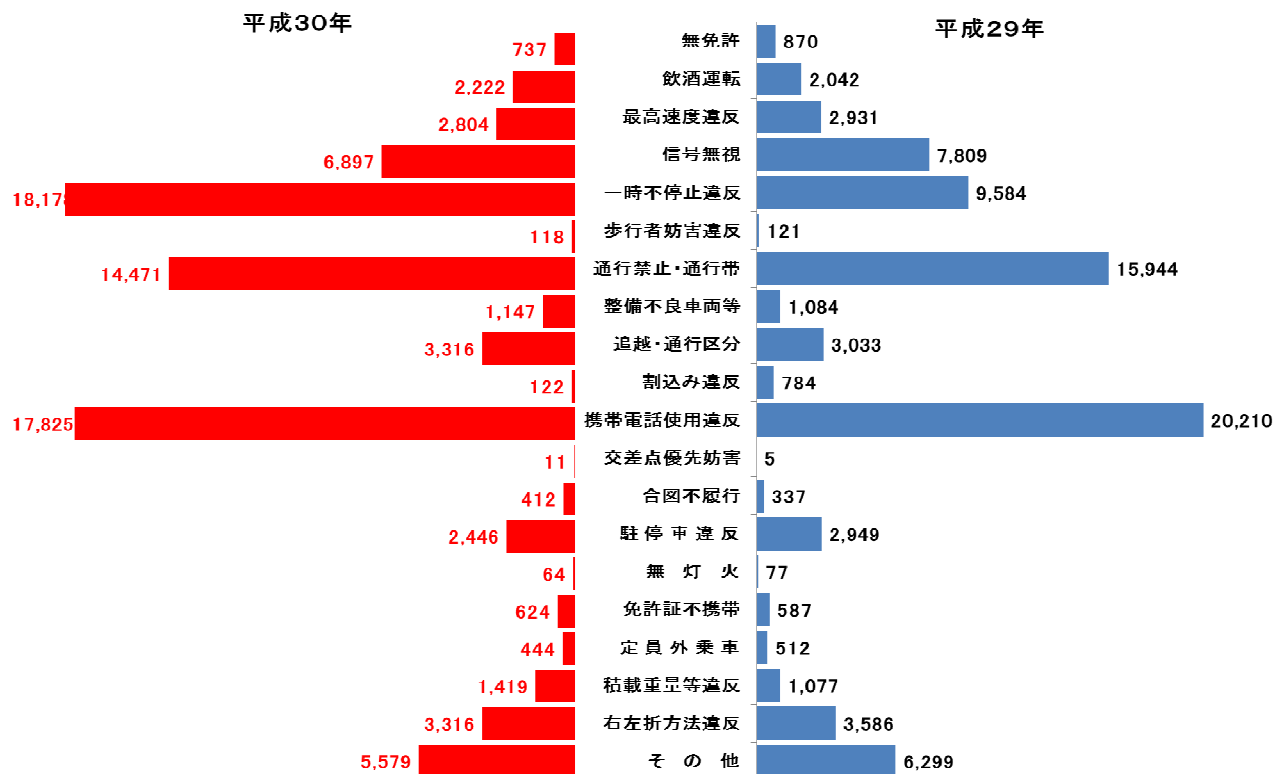
シートベルト(チャイルドシートを含む。)着用有無別死亡重傷率は、着用者3.8%に対して、非着用の死亡重傷率が2.7倍の10.3%となっています。

座席位置別の死亡重傷事故率は、運転席の非着用が27.8%と高く、着用者の8.4倍となっています。

第3 交通指導取締状況

27 交通違反検挙状況

平成30年中の道路交通法違反等の検挙件数は、82,613件で前年比2,442件(3.0%)増加しました。
重大事故に直結する悪質・危険・迷惑性の高い飲酒運転を含む交通三悪(飲酒運転、無免許運転、最高速度違反)の検挙は5,763件で前年比80件(1.4%)減少しました。



道路交通法違反等取締り状況

違反別			平成 30 年		平成 29 年		増減数	増減率
			検挙(告知)	構成率	検挙(告知)	構成率		
			件数		件数			
道 路 交 通 法 違 反	交通三悪	無 免 許	737	0.9	870	1.5	-133	-15.3
		飲 酒 運 転	2,222	2.7	2,042	2.2	180	8.8
		最 高 速 度 違 反	2,804	3.4	2,931	11.6	-127	-4.3
		交 通 三 悪 計	5,763	7.0	5,843	15.4	-80	-1.4
	交差点違反	信 号 無 視	6,897	8.3	7,809	5.8	-912	-11.7
		一時不停止違反	18,178	22.0	9,584	9.1	8,594	89.7
		歩行者妨害違反	118	0.1	121	0.1	-3	-2.5
		交 差 点 違 反 計	25,193	30.5	17,514	14.9	7,679	43.8
	通行禁止・通行帯	通行禁止・通行帯	14,471	17.5	15,944	17.4	-1,473	-9.2
		整備不良車両等	1,147	1.4	1,084	2.4	63	5.8
		追越・通行区分	3,316	4.0	3,033	2.6	283	9.3
		割 込 み 違 反	122	0.1	784	0.0	-662	-84.4
	携帯電話使用違反	携帯電話使用違反	17,825	21.6	20,210	31.0	-2,385	-11.8
		交差点優先妨害	11	0.0	5	0.0	6	120.0
		合 図 不 履 行	412	0.5	337	0.6	75	22.3
		駐 停 車 違 反	2,446	3.0	2,949	2.9	-503	-17.1
	無 灯 火	無 灯 火	64	0.1	77	0.1	-13	-16.9
		免許証不携帯	624	0.8	587	0.7	37	6.3
		定 員 外 乗 車	444	0.5	512	0.9	-68	-13.3
		積載重量等違反	1,419	1.7	1,077	0.2	342	31.8
	右左折方法違反	右左折方法違反	3,316	4.0	3,586	3.9	-270	-7.5
		そ の 他	5,579	6.8	6,299	6.9	-720	-11.4
		合 計	82,152	99.4	79,841	99.5	2,311	2.9
		その他交通関係法令違反	461	0.6	330	0.5	131	39.7
	総 合 計			82,613	100.0	80,171	100.0	2,442

	平成30年	平成29年	増減数	増減率
放置駐車確認標章貼付	11,454	10,768	686	6.4

注1 その他交通関係法令違反とは、「道路運送法、道路運送車両法、保管場所法、道路法」の違反である。

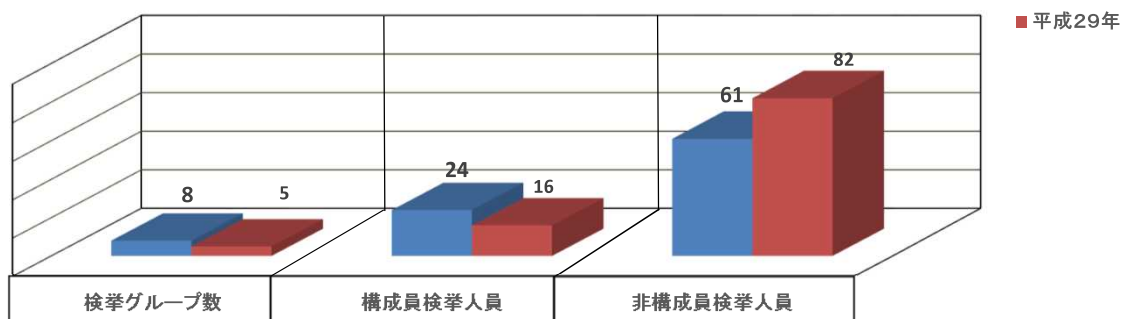
注2 その他交通関係法令違反には、教唆、幫助、不申告も含む。

注3 駐停車違反に放置駐車確認標章貼付件数は含まない。

28 暴走族等検挙状況

平成30年中の暴走族の検挙状況は、8グループ、85人（構成員24人、非構成員61人）を検挙しています。
年齢別では、17歳が30人（35.3%）と最も多くなっています。
職業別では、建築関係が35人（41.2%）で最も多く、次いでその他の職業が21人（24.7%）の順となっています。

暴走族の検挙状況（グループ及び構成員）



年齢別検挙状況（非構成員含む）

区 分	15歳以下	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳以上	合 計
平成30年	10	14	30	9	4	18	85
構 成 比	11.8%	16.5%	35.3%	10.6%	4.7%	21.2%	100%
平成29年	13	14	28	21	8	14	98
構 成 比	13.3%	14.3%	28.6%	21.4%	8.2%	14.3%	100%

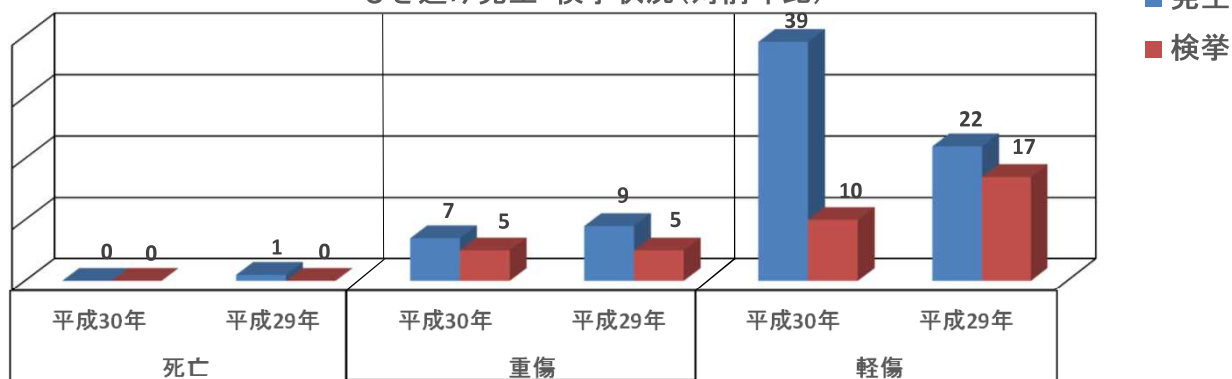
職業別検挙状況（非構成員含む）

区 分	中 学 生	高 校 生	その他の学生	建築関係	その他の職業	無 職	合 計
平成30年	8	11	1	35	21	9	85
構 成 比	9.4%	12.9%	1.2%	41.2%	24.7%	10.6%	100%
平成29年	5	7	1	46	13	26	98
構 成 比	5.1%	7.1%	1.0%	46.9%	13.3%	26.5%	100%

29 ひき逃げ発生検挙状況

平成30年中のひき逃げ事件は、46件発生し、15件（32.6%）を検挙しました。
また、ひき逃げ死亡事故はありませんでした。

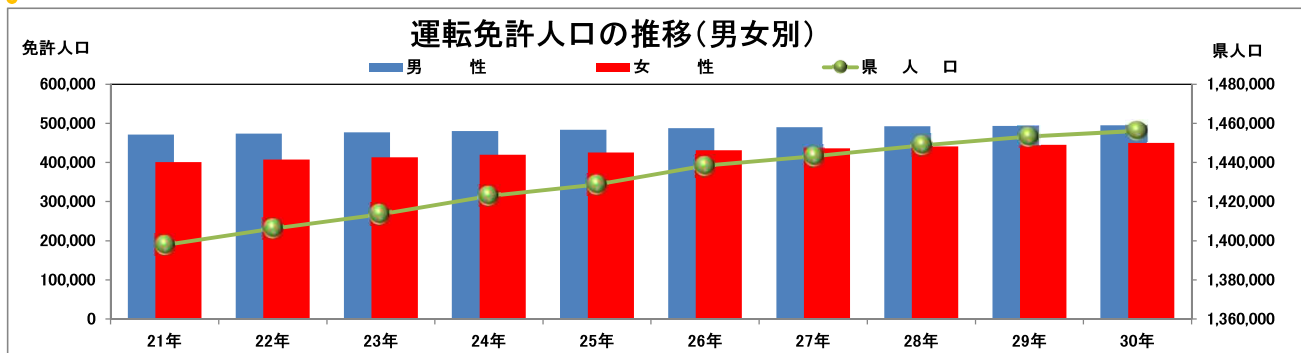
ひき逃げ発生・検挙状況（対前年比）



	死 亡			重 傷			軽 傷			合 計		
	発生	検挙	検挙率	発生	検挙	検挙率	発生	検挙	検挙率	発生	検挙	検挙率
平成30年	0	0	-	7	5	71.4	39	10	25.6	46	15	32.6
平成29年	1	0	0.0	9	5	55.6	22	17	77.3	32	22	68.8
増減数	-1	0	-	-2	0	15.8	17	-7	-51.6	14	-7	-36.2
増減率	-100	-	-	-22.2	0.0	-	77.3	-41.2	-	44	-31.8	-

第4 運転免許

30 運転免許人口の推移



県内の運転免許保有者数は944,701人で、前年比6,286人(0.67%)の増加となっています。
性別では、男性が494,702人(52.4%)、女性が449,999人(47.6%)となっています。

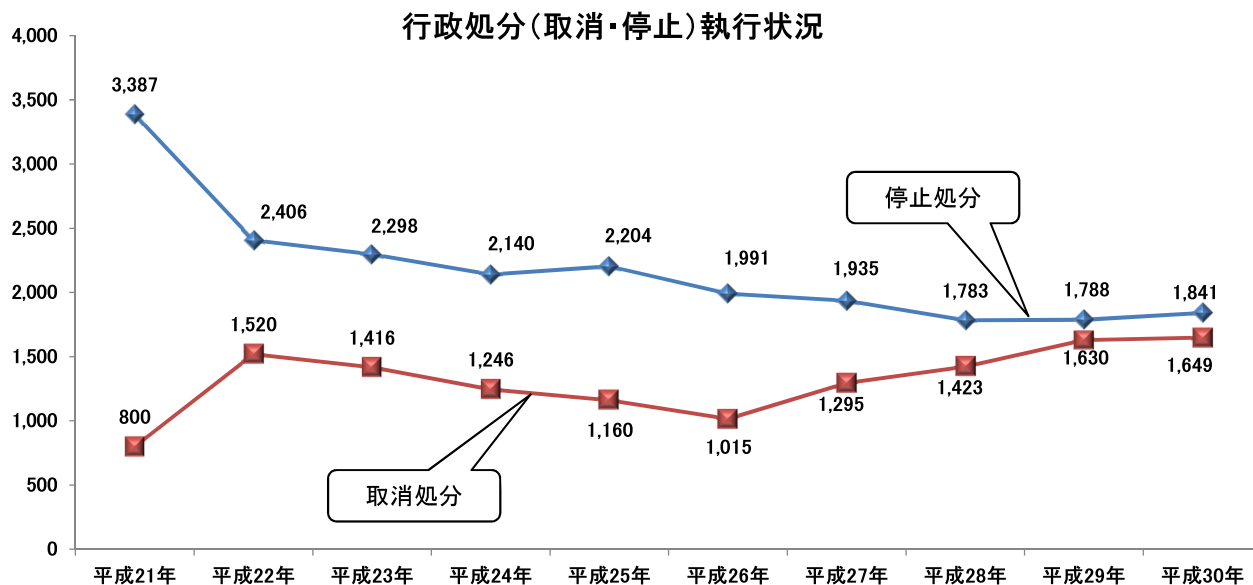
31 点数制度

点数制度は、交通違反や交通事故にあらかじめ一定の点数を付し、3年間の合計点数の多寡に応じて、免許の拒否、保留及び取消し、停止等の処分を行なうことを内容とする制度です。

点数の計算は、原則として処分の理由となる違反行為(一般違反行為及び特定違反行為)及び当該違反行為をした日から過去3年以内における違反点数を合計することとされています。

点数計算の例外として、違反行為をしないで、免許を受けていた期間(当該免許の効力が停止されていた期間を除く。)が通算して1年となった場合は、その期間前の違反行為については、累積点数を計算する場合の「その他の違反行為」には含まれないこととされています。

32 行政処分執行状況の推移



平成30年中は、3,490人に対して行政処分を執行しており、うち取消処分を受けたのは1,649人、停止処分を受けたのは1,841人となっています。

停止処分を受けた者は、10年前(平成21年)より約4割減少しています。

33 運転免許証自主返納制度

病気や高齢等の理由で運転免許の継続を希望しない運転者が、運転免許証を自主返納して運転免許の取消しを受ける制度です。

運転経歴証明書について

運転免許証の返納を行なった場合は、申請により運転経歴証明書の交付を受けることができます。

沖縄県警察では、運転免許証の自主返納を支援するため、県内公共交通機関等の協力のもと公共交通機関の運賃割引や温泉等の保養施設利用割引を受ける制度を設けています。

※但し、運転免許証の返納(申請取消)をしないで、免許を失効した場合は運転経歴証明書は発行されません。

運転経歴証明書(見本)

自主返納者数及び運転経歴証明書発行状況

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
自主返納者数	82	83	194	1,435	1,324	1,913	2,470	2,890	3,577	3,461
経歴証明書発行件数	17	19	146	1,392	1,290	1,844	2,387	2,786	3,441	3,328

※ 平成30年12月31日現在の概数です。

自主返納手続きの受付場所と問い合わせ先

- 運転免許センター 豊見城市字豊崎3番22
(電話 098-851-1000 免許第1係)
- 安全運転学校中部分校 沖縄市南桃原4丁目27番22号
(電話 098-933-0442)
- 安全運転学校北部分校 名護市東江5丁目20番5号
(電話 0980-53-1301)
- 安全運転学校宮古分校 宮古島市平良下里3107番地の4
(電話 0980-72-9990)
- 安全運転学校八重山分校 石垣市平得343番地の2
(電話 0980-82-9542)

受付 月曜日から金曜日(祝祭日、年末・年始の休日を除く。)

午前8時30分 ~ 午前11時30分

午後1時00分 ~ 午後4時45分

日曜日(年末年始の休日を除く。)

午後2時30分 ~ 午後4時00分

※ 日曜日は、運転免許センターのみ受付となっています。

- 各警察署交通課又は那覇警察署、沖縄警察署の交通対策課
受付 月曜日から金曜日(祝祭日、年末・年始の休日を除く。)

午前 9時30分 ~ 午前11時30分

午後 1時00分 ~ 午後5時45分

第5 交通規制、交通安全施設

34 一般道路の交通規制実施状況

規制種別			実施状況		平成30年12月末累計	
					区間等	延長(m)
通行の禁止	歩行者用道路	歩行者天国	0	0		
		通学・通園路	118	46,785		
		その他	225	55,878		
		計	343	102,663		
	上記以外禁止	大型車通行止	219	105,490		
		特定貨物車等通行止	6	2,120		
		二輪以外の自動車通行止	5	16,415		
		車両通行止	16	10,608		
		二輪の自動車原付通行止	6	8,170		
		自転車通行止	6	7,740		
		バス以外の車両通行止め(バス専用道路)	5	5,480		
		自転車以外の車両及び歩行者通行止め	0	0		
		その他の通行止	4	1,977		
		計	267	158,000		
	一方通行		618	150,127		
	指定方向外進行禁止		1,336	—		
	歩行者横断禁止		52	35,280		
	中央線変移	交差点付近	69	6,034		
		その他	17	11,867		
専通行用帯	追越しのための右側部分はみ出し通行禁止		7	7,430		
	片側二車線		398	1,043,752		
	立入禁止部分		1	—		
	路線バス等	片側	21	29,240		
		両側	0	0		
		二輪車	0	0		
	自転車		0	0		
	その他車両通行区分指定		19	114,788		
	路線バス等優先通行帯	片側	0	0		
		両側	0	0		
	軌道敷内通行可		0	0		
最高速度	区間	80km/h	0	0		
		70km/h	0	0		
		60km/h	4	22,150		
		50km/h	136	342,783		
		40km/h	1,190	1,629,620		
		30km/h	1,113	884,175		
		30km/h未満	224	89,722		
	小計		2,667	2,968,450		
	区域	40km/h	1	3,670		
		30km/h	33	141,675		
		20km/h	1	3,840		
		小計	35	149,185		
	合計		2,702	3,117,635		
	最低速度		0	0		
	車両横断禁止		6	5,832		
	転回禁止		83	29,926		
	進路変更禁止		566	21,746		
追越し禁止	片側	片側	0	0		
		両側	0	0		

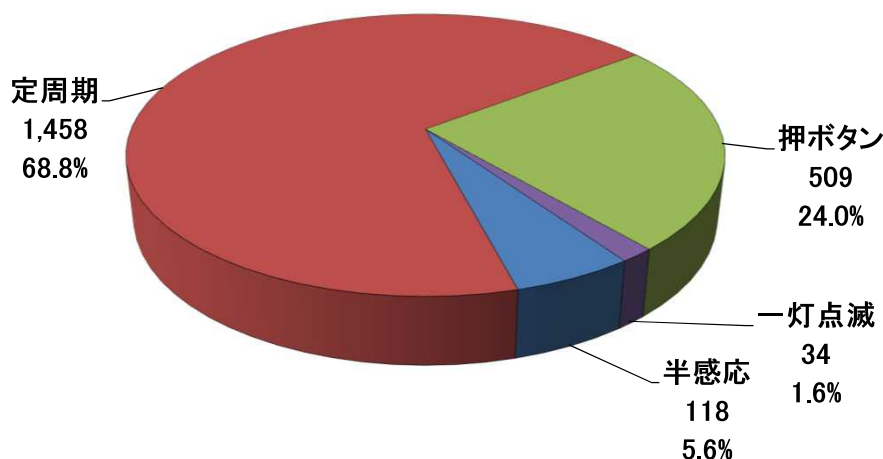
規 制 種 別			実 施 状 況		平成30年12月末累計	
					区間等	延長(m)
優 先 道 路			2	630		
右 左 折 の 方 法			12	—		
二段階右折 対象交差点	二 段 階 右 折		0	—		
	小 回 り 指 定		103	—		
環 状 の 交 差 点 に お け る 右 回 り 通 行			2	—		
進 行 方 向 別 通 行 区 分			669	—		
徐 行 (場 所)			31	—		
一 時 停 止			9,814	—		
駐 停 車 禁 止	片 側		20	13,801		
	両 側		143	128,347		
駐 車 止 禁	区 間	片 側	60	41,375		
		両 側	3,592	1,831,730		
	区 域		1	—		
駐 車 方 法 の 指 定	平 行		26	2,472		
	直 角		1	170		
	斜 め		2	58		
駐 車 可 の 指 定			31	2,883		
停 車 可 の 指 定			0	0		
時間制限 駐車区間	P・Mの 設置	片 側	4	480		
		両 側	1	430		
	P・T発給 設備の設置	片 側	1	15		
		両 側	0	0		
停 止 禁 止 部 分			62	—		
警 笛 鳴 ら せ	場 所		8	—		
	区 間		0	0		
路 側 帯	歩 行 者 用	片 側	1	70		
		両 側	0	0		
	駐 停 車 用	片 側	1	2,200		
		両 側	0	0		
	一 般	片 側	98	37,671		
		両 側	13	4,920		
普 通 自 転 車 歩 道 通 行 可			82	830,269		
普 通 自 転 車 の 歩 道 通 行 部 分			5	9,140		
普 通 自 転 車		交 差 点 数	0	—		
交 差 点 進 入 禁 止		箇 所 数	0	—		
横断歩道	信 号 有		5,145	—		
	信 号 無		7,176	—		
斜 め 横 断 可			5	—		
安 全 地 帯			0	—		
導 流 地 帯			0	—		
路 面 電 車 停 留 場			0	—		
自 転 車 横 断 帯	信 号 有		23	—		
	信 号 無		41	—		
二 段 停 止 線		交 差 点 数	0	—		
		箇 所 数	0	—		
左 折 可			61	—		

35 信号機の設置状況

平成30年12月末の信号機設置状況は、2,119基、うち半感应式が118基、定周期式が1,458基、押しボタン式が509基、一灯点滅式が34基となっています。

また、道路実延長10km当りの信号機設置状況は、那覇市が8.62基で最も多く、次いで宜野湾市7.29基、浦添市6.89基等の順となっています。

信号機設置状況



平成30年12月31日現在

市町村名	半感应	定周期	押しボタン	一灯点滅	計	人口	人口千人当 設置数	道路実延 長距離	10km当 設置数
那 覇 市	6	296	105	1	408	318,944	1.26	473.430	8.62
宜 野 湾 市	0	87	29	4	120	97,112	1.22	163.591	7.29
石 垣 市	1	62	17	5	85	48,946	1.73	496.561	1.71
浦 添 市	6	96	20	3	125	113,405	1.09	180.812	6.89
名 護 市	8	88	26	0	122	62,410	1.95	520.524	2.32
糸 満 市	4	69	21	1	95	60,852	1.56	271.992	3.49
沖 縄 市	7	142	49	2	200	140,295	1.41	420.130	4.65
豊 見 城 市	2	63	10	1	76	63,655	1.21	169.647	4.48
う る ま 市	8	126	49	1	184	122,185	1.50	556.346	3.26
宮 古 島 市	2	76	10	4	92	54,135	1.69	1,159.988	0.79
南 城 市	7	30	12	1	50	43,466	1.16	369.098	1.35
国 頭 村	2	2	3	0	7	4,825	1.41	173.508	0.40
大 宜 味 村	1	0	3	0	4	3,115	1.27	100.786	0.40
東 村	0	1	0	0	1	1,798	0.54	78.670	0.13
今 帰 仁 村	0	4	10	2	16	9,451	1.67	164.028	0.98
本 部 町	5	15	9	0	29	13,271	2.16	179.820	1.61
恩 納 村	15	13	20	0	48	10,240	4.37	92.099	5.21
宜 野 座 村	1	4	7	0	12	5,962	2.02	101.439	1.09
金 武 町	7	7	10	0	24	11,432	2.10	111.555	1.95
伊 江 村	0	3	1	0	4	4,580	0.87	190.233	0.21
読 谷 村	7	34	10	2	53	40,842	1.28	138.493	3.83
嘉 手 納 町	5	18	6	1	30	13,663	2.19	46.025	6.52
北 谷 町	1	43	5	1	50	28,561	1.71	108.071	4.63
北 中 城 村	0	30	6	0	36	16,785	2.14	89.613	3.87
中 城 村	7	16	18	1	42	20,521	2.07	109.012	3.72
西 原 町	4	35	10	0	49	34,694	1.39	119.732	3.94
与 那 原 町	1	21	10	0	32	19,477	1.66	53.885	5.94
南 風 原 町	4	46	11	1	62	38,441	1.63	122.951	4.98
渡 嘉 敷 村	0	0	1	0	1	691	1.42	19.880	0.50
座 間 味 村	0	0	1	0	1	908	1.07	27.119	0.37
粟 国 村	0	0	1	0	1	705	1.38	47.055	0.21
渡 名 喜 村	0	0	1	0	1	376	2.60	9.050	1.10
南 大 東 村	0	0	1	0	1	1,251	0.78	59.994	0.17
北 大 東 村	0	1	0	0	1	568	1.72	36.817	0.27
伊 平 屋 村	0	0	1	0	1	1,244	0.79	80.435	0.12
伊 是 名 村	0	0	1	0	1	1,453	0.66	86.107	0.12
久 米 島 町	0	3	4	0	7	7,945	0.86	226.287	0.31
八 重 瀬 町	7	23	10	3	43	30,840	1.41	269.436	1.60
多 良 間 村	0	1	0	0	1	1,151	0.85	127.094	0.08
竹 富 町	0	1	1	0	2	4,229	0.47	195.741	0.10
与 那 国 町	0	2	0	0	2	1,698	1.17	140.767	0.14
合 計	118	1,458	509	34	2,119	1,456,122	1.44	8,087.821	2.60

注1 人口は、住民基本台帳による。(平成30年1月1日現在)

2 道路実延長距離は、沖縄県土木建築部道路施設現況調査(平成28年4月1日現在)による。(沖縄自動車道及び那覇空港自動車道は含まれない。)

第6 各種交通事故防止対策

36 飲酒絡み事故防止対策

1 飲酒運転根絶対策

県警察では、「沖縄県飲酒運転根絶条例」に基づいた県民総ぐるみの飲酒運転根絶活動を展開するため

- 飲酒運転根絶に向けた交通安全教育の推進
- 飲酒運転根絶県民大会の実施
- 「飲酒運転の根絶運動の日」(毎月1日)における取り組み
- 飲酒運転根絶対策優良事業所認定
- ユーチューブのスキップ広告を活用した広報啓発
- 交通ボランティア等と連携した広報啓発
- コミュニティーFMなどを活用した広報啓発

など各種施策を関係機関・団体等と連携して推進しております。



【飲酒運転根絶講話の実施】



【飲酒運転根絶県民大会】



【毎月1日 飲酒運転の根絶運動の日】



【飲酒運転根絶対策優良事業所認定】



【交通ボランティアと連携した広報啓発活動】



【ユーチューブでのスキップ広告】

2 沖縄県飲酒運転根絶条例 ～平成21年10月1日施行～

飲酒運転の根絶を図るためには、「沖縄県飲酒運転根絶条例」の制定趣旨にもありますように、県民ひとり一人が「飲酒運転をしない させない 許さない」社会環境の醸成に向けた取組

沖縄県飲酒運転根絶条例 骨子

この条例は、県及び県民等が一体となって飲酒運転の根絶を図り、飲酒運転のない安全で安心な県民生活を実現することを目的とします。

- 県民は家庭や地域、職場で飲酒運転根絶の取り組みに努める
- 公職にある者は範を示すべき立場を深く自覚し、飲酒運転根絶に率先して取り組む
- 事業者は従業員に対し、飲酒運転根絶に関する教育、指導その他必要な措置を講ずるよう努める
- 飲食店、駐車場所所有者は、飲酒運転防止呼び掛けの文書掲示に努める
- 公安委員会は、再発防止の措置として飲酒運転をした者や、その者に酒類提供した飲食店等に対し必要な措置を講ずるものとする
- 県は、飲酒運転をした者及びその家族等からの相談に対して、再発防止のための助言その他必要な措置を講ずるものとする
- 公安委員会は、飲酒運転事故件数や違反者数などの情報を市町村別に作成し、インターネットなどで公表できる
- 県は、総合的な施策推進の基本方針を策定。
- 根絶運動の日を毎月1日と定める

3 アルコールに関する正しい知識を！

○ アルコールの処理にかかる時間

飲んだアルコールが肝臓で分解され、体外に排出されるまでには、予想外に時間がかかります。体内でのアルコールの処理は、体重1kgにつき、1時間で0.1グラムという速度です。たとえば体重60kgの人がアルコール20グラムを処理するには3～4時間かかります。これはあくまでも目安です。日頃から飲み過ぎがたたって肝臓が弱っていたり、風邪薬を飲んでいたりすると、アルコールの処理はもっと時間がかかるかもしれません。

一晩寝たから大丈夫、では とおりません!

知っていますか? 二日酔い

それぞれのアルコール**1単位**の目安

チューハイ  1単位 350ml アルコール度 7%	泡盛  1単位 100ml アルコール度 25%	ビール  1単位 500ml アルコール度 5%
--	--	--

酒酔い運転
免許取り消し(欠格期間3年)

酒気帯び運転
0.15～0.25mg/ℓ 免許停止 90日
0.25mg/ℓ 以上 免許取り消し(欠格期間2年)

お酒を飲むときは翌日の仕事を考えて、寝ている間にアルコールが分解される適度の量を飲みましょう。

睡眠8時間
アルコールは徐々に分解

1単位のアルコールが抜ける(分解される)には、約4時間かかります。

左のように3単位飲むと...

8時間寝たからといってアルコールが身体で分解されるのは2単位分です。

つまり翌朝は**1単位残っている二日酔い状態**なのです。

沖縄県・沖縄県警察・沖縄県交通安全協会連合会

37 二輪車事故防止対策

1 二輪車事故の原因

二輪車事故の原因として、

- 二輪車は街路樹や車両の陰等に入りやすく、車の運転手から見えにくい
- 二輪車は車体が小さいので、四輪車と比べて速度や距離を見誤られやすいことが考えられます。

また、二輪車運転者の中には、ツーリング中の速度超過や無理な追越し、渋滞時のすり抜けや進路変更などの悪質・危険な運転をする者がおり、県内では二輪車事故が多く発生しているほか、交通マナーの悪さも問題となっています。

2 県警察の取組

県警察では、二輪車事故を防止するために、二輪車に対する指導取締りを徹底するとともに、

- 交通事故の実態や悲惨さを周知理解させるための交通安全講話
- 自動車学校の教習コースを活用した参加・体験・実践型の交通安全教育
- コミュニティFM局や広報誌等を活用した広報啓発活動

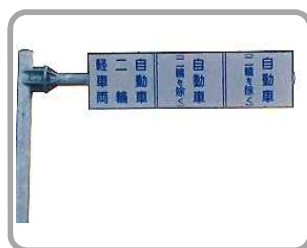
等のほか、県教育庁や沖縄県二輪車安全普及協会等の関係機関・団体と連携して、

- 高校に出向いての交通安全講話や、白バイ隊員による二輪車実技指導
- 二輪車販売店等と連携した街頭における二輪車点検指導等の事故防止対策等を推進しています。



【白バイ隊員による二輪車実技指導】【高校生に対する二輪車実技指導】【二輪車販売店と連携した街頭点検】

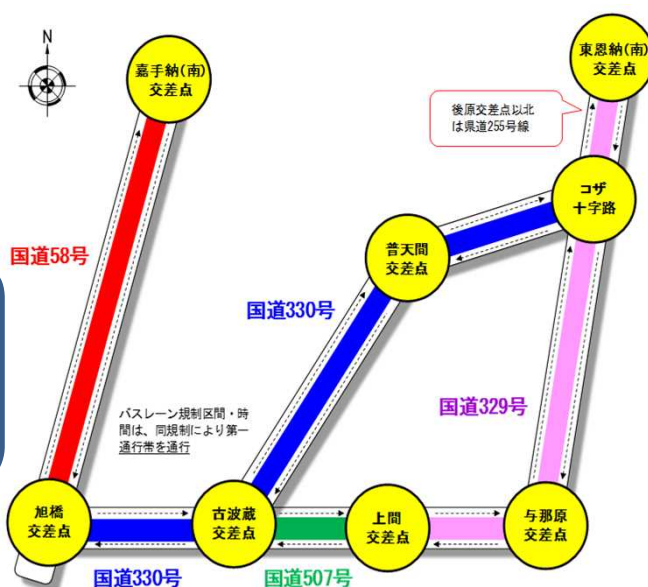
また、県内では、主要な幹線道路の国道58号、国道330号、国道329号などの総延長82kmの区間において、二輪車の通行を**第1通行帯に指定**する交通規制を実施しています。



二輪車運転者の皆さんへ！

第1通行帯とは、進行方法に向かって一番左側の車線のことです。

標識等で通行帯が指定されている場合、この車線を通行しなければなりません。



38 子供の事故防止対策

1 子供の事故の特徴

子供の交通事故の特徴として、

- 歩行中に事故に遭う割合が高い
- 他の年齢と比較して自転車乗車中の事故が多い
- 放課後の事故が多い
- 幼児は、自動車同乗中の事故が多い

ことなどが挙げられます。

2 県警察の取組

県警察では、新入学児童・園児を対象に4月から7月までの間、集中的に

- 子供自転車教室
- 腹話術による交通安全教育
- 模擬信号機を活用した正しい横断方法の指導

等を実施して子供の事故防止対策の他、小学校を母体とする交通少年団の結成の促進及び活動の支援を行なっています。



【子供自転車交通安全教室】



【新入園児、児童へ横断歩道の渡り方指導】



【腹話術による交通安全教室】



【交通少年団の結成・入団式】

39 自転車事故防止対策

1 自転車事故の原因

自転車事故の原因は、

- 交差点などにおける安全確認が不十分
- 車体が小さく、車両から見落とされやすい
- 免許が無くても乗れるため、自転車の交通ルールやマナーの意識に乏しい

こと等が考えられます。

自転車は、誰もが気軽に乗れる便利な乗り物ですが、軽車両に分類され車両の仲間です。

自転車の交通ルールとマナーを守って、安全運転を心がけましょう。

■ 自転車安全利用五則

- 1 自転車は車道が原則、歩道は例外(※注)
- 2 車道は左側を通行
- 3 歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行
- 4 安全ルールを守る(飲酒運転の禁止、二人乗りの禁止、並進禁止、信号を守る等)
- 5 子どもはヘルメットを着用

※注 例外とは、普通自転車通行可の標識のある歩道は自転車で通行することができます。

また、13歳未満の子ども、70歳以上の方については、「普通自転車歩道通行可」の標識がなくても歩道を走行することができます。

2 県警察の取組

県警察では、自転車事故を防止するために、悪質な自転車利用者に対する指導・警告を実施するとともに、

- 小学生から高校生までを対象とした自転車教室の開催
- 交通ボランティア等と連携した街頭での自転車の安全な乗り方指導
- 自転車販売店等と連携した街頭での点検整備指導
- 祭りイベント会場での子ども自転車教室の開催

等の事故防止対策を推進しています。



【子供自転車教室】



【街頭自転車指導】



【高齢者自転車大会】



【子供自転車大会】

県民のみなさまへ



自転車も 交通
ルールを守って
安全に走行しま
しょう！

歩道上で、自転車が歩行者にぶつかって怪我を負わせる事故も発生しています。
自転車は「くるま」の仲間(軽車両)ですので、一方通行を逆行することはできません。
自転車に乗車して歩道を自由気ままに歩行者感覚で走行させると大変危険です。

40 高齢者の事故防止対策

1 高齢者事故の特徴

高齢者事故の特徴として、

- 高齢者関連事故が年々増加傾向
- 高齢歩行者の死亡、重傷率が他の年齢と比較して高い
- 高齢運転者が原因となった交通事故の比率が他の年齢層と比較して高い
- 高齢運転者の死亡、重傷率が他の年齢より高い

ことなどが挙げられます。

高齢者の事故は、加齢に伴う身体機能の低下に伴い、判断能力、行動力等の遅れを招き、事故に遭遇していると考えられます。

2 県警察の取組

県警察では、高齢者事故を防止するため、

- 歩行者交通安全教育シミュレーター等を活用した参加・体験型の交通安全教育の実施
- 高齢歩行者に対する交通安全教育用チラシや反射シートの配布
- 安全運転サポート車体験による交通安全教室の開催
- 運転免許更新時における高齢者講習の実施
- 運転免許自主返納制度の支援活動の充実

等の交通安全教育を中心とした事故防止対策を推進しています。



【歩行者シミュレーターを活用した交通安全教育】



【安全運転サポート車体験による交通安全安全教育】



41 シートベルト・チャイルドシート着用促進対策

1 シートベルト・チャイルドシートの非着用の危険性

通常、成人が手や足で支えられる力は、体重の2倍程度と言われており、例えば60kgの成人男性がいざという時、支えられるのは120kgという事になります。それがどの程度の威力かという、時速約7キロになります。速度40キロで走行中に事故にあった場合に、体に加わる力は体重の10倍にも達し、そのため手足で支えきれず、

- 交通事故の衝撃で全身を車内で強打する可能性がある
 - 交通事故の衝撃で車外に放り出される可能性がある
 - 後部席で着用しなかった場合、前席の人と衝突し、両者が怪我をする可能性がある
- ことなどが挙げられます。

2 沖縄県のシートベルト・チャイルドシート着用率

平成30年に警察とJAFとの合同で実施したシートベルトの着用率を調査した結果、一般道路・高速道路いずれも全国最低レベルとなっています。

また、チャイルドシートについても同様な調査を行った結果、平均使用率は**50.0%**（全国平均**66.2%**）という極めて低い結果でした。

3 県警察の取組み

県警察では、シートベルト・チャイルドシートの着用・使用を徹底するため、

- 産婦人科や保育園の職員、保護者などにチャイルドシート着用の重要性を指導
- チャイルドシートの正しい取付け方法の指導
- シートベルトコンビンサーを活用した体験型交通安全教室

等の安全教育を中心とした事故防止対策を推進しています。



【シートベルトコンビンサーを活用した体験型交通安全教室】

		運転席	助手席	後部席
沖縄	一般道	97.7%	92.8%	17.9%
	高速道	98.4%	92.9%	51.2%

		運転席	助手席	後部席
全国	一般道	98.8%	95.9%	38.0%
	高速道	99.6%	98.5%	74.2%

【平成30年シートベルト着用率の全国調査結果】

シートベルト・チャイルドシートは正しく着用し、自分自身だけでなく同乗している家族や子供などの大切な命を守りましょう。

= 平成31年 =

◎年間スローガン

交通ルール 守る心に 事故はなし

◎交通安全年間スローガン(最優秀作)

☆運転者(同乗者を含む)に対するもの

チャイルドシート ちいさなVIPの 指定席

☆歩行者・自転車利用者に対するもの

危険だよ スマホに夢中の そこの君

☆こどもの交通事故防止に関するもの

とび出さない いったんとまって みぎひだり

交通白書ダイジェスト(平成30年版)

編集 沖縄県警察本部交通部交通企画課

〒900-0021

沖縄県那覇市泉崎1丁目2番2号

電話番号 098-862-0110

(内線 5051・5052)

飲酒運転をしない、させない、許さない



STOP!!
飲酒運転